會長　島田三郎　副會長　[illegible]雄

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）
（大正七年四月一日印刷發行）（毎月一回一日發行）

4—579

廓清

第八巻第四號

□收賄問題批判……前衆議院議長　島田三郎
□滅び行く公娼制度……早大教授　安部磯雄
□大戰亂と廓清運動……廓清會理事　油谷治郎七
□日本の產業と勞働問題……法學博士　山脇玄
□女大學新評論（二）……一條忠衛
□米國で感じた人形……東洋家政女學校長　岸邊福雄
□戰勝の社會的背景……法學博士　吉野作造
□兒童の賞罰に就て……高師幼稚園主事　倉橋惣三
□花柳病の慘毒……醫學博士　藤浪剛一
□酒色の五大損失……立教大學長哲學博士　元田作之進
□智識階級とは何ぞ……齒科醫專學生監　水津謙介
□醫師から世の親へ……醫學博士　藤浪鑑
□遊廓物語（十一）……婦人救濟係　伊藤少校
□編輯局から……廓清會主事　伊藤江南

東京　廓清會本部發行

LION LION LION LION LION LION LION

歯磨界の最高權威たる

ライオン歯磨

新製中袋入の發賣

▼皆様御承知の通り、ライオン歯磨袋入には、小袋入と大袋入との二種がございます。
▼今回更に皆様の御勧めに從ひまして ライオン歯磨「中袋入」と申すものを新たに發賣する事に致しました。
▼「中袋入」は割合に分量多くて、お値段も格安でございますから御家庭用に宜しい事と存じます。
▼その品質のすぐれたるそは勿論 体裁も[illegible]斬新で どなたのお口にも氣持よい感じを與へます。
▼どうぞ小袋入・大袋入・特大袋入同様 御愛用を願ひます。
▼「中袋入」にも景品券が添附してございます。

發賣元 小林富次郎

廓清會々告

正會員會費は、從來一ヶ年金八拾錢なりし處、大正七年四月より、金壹圓に相改め、愈會務の發展に努め候間、此段御賛同願上候也

追而、既納の會費は其割合を以て換算し、端數は一ヶ月分と見做す。
集金は年二回、半年分即ち五十錢づゝ郵便集金を以て集金す。

大正七年四月一日

廓清會々長　島田三郎

理由

近來一般に物價の騰貴は甚しけれども、就中紙代に至つては戰前に比して三倍の暴騰を見、印刷代の如きも亦二倍に垂んたる有樣にて、各雜誌は既に値上をなすか然らざれば頁數を減じ、或は小版となし居れるが、本會機關誌の如きも、賛助會費の補助によりて現狀を維持する有樣にて、演說會其他の運動費用い壓迫を受くるが故に、我等は之に對して消極的に縮少するを避け、飽迄積極的に主張の徹底に邁進致し度と存じ、敢て正會員諸君の御賛同を相仰ぐ次第に候、一ヶ月として僅に一錢七厘の相違に付、何卒不相變御同情の程希望に不堪候。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

收賄問題批判

前衆議院議長
廓清會々長　島田三郎

九州が種々の點から工業繁榮の地となつてゐる事は近年最も目覺しい。海運の自由なると、石炭の豐富なると、滿鮮其他の日を逐ふて開け行くとは、九州をして繁榮ならしめる著しき原因であらう。殊に世界の大戰に際して種々なる工業が起り、爲めに富の増加甚しく、煤煙は九州の天を掩ひ、船舶は輻輳して、賃金は高騰し、産物の主なる鐵の價の如きは非常なる高價となつた。其他化學工業と云ひ、機械工業と云ひ、眞に凄ましきものがある。

然るに翻つて他の一面を見れば、道徳は逆比例に低下して、錦の下に汚物を包んだ感があり、一度檢事の手が下れば、恰も火山の破裂した如き狀況を示して、天下を驚かしめたのである。此事に就ては何の方面が罪惡の根據地であるか、殆んど方角も立たぬ程であるが、而も其中は政府の關係である。第一に製鐵所、第二に礦山監督署、第三に鐵道院の部下の關係である。何れも公の職務を帶んで公平に人民の公利を保つべき責任を負つてゐる役人である。高下を問はず公職の爲めに名譽の位地に立つてゐる役人が公人として最も卑しむ可く恥づ可き瀆職罪に夥しく檢擧せられたとは何たる事ぞ。

一昨年夏秋の頃に、此事はうす／＼世間に噂されて居つたが、何にしても公の役所に手を入れる事であるから、確たる證據がなければならず、檢事も周到の注意を拂つて、愈疑なき迄の確證を得たから手を下したのである。爲めに半年の日月を經過した。殊に檢擧せられた人々の中に、直任官、親任官もある次第だから、特別な政府の許可を得なければならず、旁々今日に至つたものと見ゆる。

更に眼を轉じて贈賄者の方を視るに、國內屈指の富豪が少からず引合になつてゐる。炭坑の側もそれであり、製造家の側もそれである、器械買込商もそれである。鐵の材料拂下を乞ふもの〻側もそれである、造船家も亦それである。何れも近時の貿易商業の繁榮に乘じて、一擧に巨萬の富を得た人々で、其主人公の或者は金力の爲めに男爵の榮を得た人もある。其數と云ひ、其富と云ひ、其官職と云ひ、何れも今回の檢擧は天下を驚かすべき廣き範圍の騷動であるが、聞く處によれば檢擧すべき範圍

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

は玆に止まらぬとの事である。一切の情實を排して眞に法律の威力を表はすなら、未だ何れ程か分らぬ。鐵道の如きも啻に九州方面に止まらず、磐城炭坑も積荷に私情を以て貨車を取扱ふ事恰も九州の炭坑の如く、爲めに茨城より福島縣に渉つて同じく檢擧せられつゝある。

□

抑も之等は何を意味してゐるのである乎。近時の形勢は富の要求が人間生活の全部を掩ふてゐる如き形勢で、人世の快樂は唯富の獲得にあると解せらるゝ如く、貪婪足るを知らず、多ければ益〻多からんことを望み、其の之を得る手段と、富は何の目的によつて貴重なりやといふ意味も殆んど忘られて、たゞ熱狂の姿を現じてゐる。而して此風潮が今日の禍を呈したと見るべきであらう。未だ公判を始めぬから實地の經過は知るべからざるも、新紙に表はれたる處によれば、贈賄する者は自己の私慾を逞しくする爲め、一萬の賄賂を使へば十萬の利益があり、五萬の賂賂を使へば五十萬の利益があつて、要するに贈る者は多々益辨ずるの道を取つた。受くる者は國家に損害を與へても自己が得をするなら之に越したのはないといふ間違つた考が、此の醜態を現はすに至らしめたのである。

賄賂の禍は傳染病の如く一人なして咎めらるゝ事なくば、十人二十人また直に行ふのである。是によつて社會の風紀は汚れ、公の損害は益〻加はるも、其損する者は國家であり國民であるが故に、知れざる内は何人も咎むる者はない。慣習性をなし、惡い事となす道念を痲痺して其害の停止する所を知らぬ。八幡の製鐵所の如きは、其創立以來收支償はぬと稱せられ、第二期の擴張第三の擴張と漸次國庫の金を注ぎ込みて、更に第四回の擴張を行はんとの計劃中であつたが、創立以來多年を經過した事とて、誠實なる事業の經營ならんには元より既に補助を要せざるべく、年積り業盛んにして尚常に損失するの理由、這次の檢擧によつて明白となつた譯である。値を構はず之を拂下げれば利益のあらう筈なく、無用の金屑と稱して海に投じ、立派な鐵材を斯くて海底に沈めて、半夜之を引揚ぐれば即ち投げた者も揚げた者も利を得る。機械の購入にも多大の賄賂を取つて高價な器械を据付ける。而も斯の如きはたゞ近日の事に非ずして、恐らく創立以來繰返され來つたらしく思はるゝではないか。

□

金錢の上に國家の損失を見る事甚しかりし醜怪なる此一大事實の暴露は、何人も驚きの眼を以て見るであらうが、我々の着眼は之に止まらず、之によつて如何に官紀が紊亂し、風俗が墮落し、人間

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

として恥の何たるを知らざる頽廢の風の醸成を懼るゝのである。今回の檢擧は、製鐵所のみにても數人の自殺者を出してゐるが、之に就ては一種の慊疑が社會に存して居る。或者が存生して居たら其供述によりて新しき證據の擧がる危險がある爲、自ら決して死せる者もあらうけれども、又或は他の事情によつて死んだ者なしとせぬ。乍併是等の人も始めより罪惡を犯すべき心があつたとは限らぬ、惡しき空氣の中に罪惡に感傳して、心には非常な苦しみを抱いてゐる者も多からう。個人としては其人の境遇に同情せざるを得ぬ。如斯事實が一所に行はれゝば、始めは人が驚いて之を見るが、鮑魚肆にあり久而其臭を知らず、と古語にある如く、眼に熟し耳に慣れては遂に却つて之を羨むに至り、之を爲さゝる者は其内に居られぬ樣になるのである。惡習の傳染は眞に恐るべしである。

昔、北條康時、栂尾の明慧上人に會ひて、天下に盜みをする者多くて困るが如何にして之を防ぐべきやと問ふた時に、上に立つ者權力ある者無慾なれば、自ら下無慾となると答へたので、康時は大に啓發せられたといふ。彼は他の點に於て非難せられたけれども『政』の清き點に於ては反對の者も康時の行に敬意を拂ふに躊躇せぬのである。予の考によると、九州の方面に現はれた今回の出來事は、法律の證據のある人、若しくば五十圓百圓の賄賂或は饗應で刑事被告となつたものは、道德の眼から尙ほ輕き人である。證據の擧がらぬ人にして、是より幾層倍の不法の私利を營む者あるも法律の手は之に及ばぬのである。網せられたる細鱗は寧ろ憫れむ可し、此の逸した呑舟の魚こそは天下を毒する根源をなす者である。

不義に富を得た者は更にまた不義に其財寶を費消するを常とし。二重に罪惡を社會に行ふ。大抵斯かる腐敗の事實は待合に行はれ、料理屋に行はる、或は別莊に妾を蓄へて不義の快樂を貪り、何れも社會の風紀を紊る處の方面に之を濫用して他をして之を傚はしむるのである。薄志弱行の徒は其罪惡の結果を羨望し自制克己の力を失ふて、又自ら之に墮するの形勢を馴致するのである。本件が愈々公判に附せらるれば予の豫言の實證さるべきを疑はぬ。而してこれが如何に國家の風教に惡影響を及ぼすかは、一國自ら立つ能はずして遂に我帝國に合併せられたる朝鮮を見る可く、彼は實に賄賂によつて獨立を失つたのである。支那の官人は公の收入では大抵其體面を保つ事の出來ない程の生活をして居るといふが、賄賂を公許せられた支那は、土地廣く人民多く、富源亦少からざるに依然として亂雜を極め、國體は共和國と變じても其人民の精神は舊によつて低劣、賄賂の惡事たるを感ぜざる程痲痺してゐるから發達がない。支那の軍隊は金錢さへあれば之を買收する事を得、金の多い者の自由になると聞く。是又金錢崇拜、賄賂公行の結果にして軍紀を維持し得ざる實例である。

東洋にありて國力日に揚がる日本帝國は、此點に於て他に誇るに足る高潔なものがあつたが、余が屢々警告した如く近時物質の繁榮に憧れる結果、富豪と稱する者も賄賂を忌まず、公職に居る官吏も受賄を耻とせず、操觚の士亦深く之を咎むるなきに至つたのは、國家の爲め眞に恐る可き徴候である、吾人は孔子の所謂色得の二道に現代人の修養の必要が一層切實なるを思ふものである。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

滅び行く公娼制度

廓清會副會長
早大教授　安部磯雄

□公娼存置の三大理由

凡そ公娼制度が社會に存在して居るのは三つの理由があるからである。これは獨り我國許りではなく、歐米諸國でも矢張共通な點であつて、其第一の理由とする處のものは風紀取締の關係上、例へば賣淫婦が公路を徘徊して嫖客を誘引するやうな事を容易く取締らうとするには、何うしても之を或一廓に集めなければならぬといふのである。第二は衞生の方面で、若し私娼であつたなら花柳病等に罹つても放任して置くが爲めに害毒を社會に流す虞が多いに反し、公娼であれば檢黴が容易く實行し得られるから、衞生取締には是非とも制度を公許する必要があるといふ。第三は公娼制度なるものに依つて當局が犯罪檢擧の便利に供しやうとするのであつて、加之是は德川時代から引續いて現在に及んで居るのであるが、歐米諸國に於ても此點は暗に一致して居るやうに私共は感じて居る。如斯三つの主なる理由から、公娼制度の存在を認めて居るのであるけれども、緻密に之を研究すると其處には種々な疑問が起つて來ると同時に、現在に於て其目的が達せられて居るや否やが甚だ危ぶまずには居られぬ點がある。

第一の風紀取締の上から考へて見ても、我國の狀態などは全く滑稽に堪へないやうな憾がある。全體歐米諸國などでは袖を引く事は絶體に禁止されて居るから、餘程狡猾な娼婦でもない限りは滅多に其麼惡い事をする者もないが、我國では公然男子を挑發せしめて誘惑する力を政府から與へられて居るから、直接袖を引くやうな事はない代りに一種の魔力を持つて遺憾なく客を誘引して居るやうな狀態にある。之等は風紀取締から云つて全く撞着してゐると思ふ。

□公娼存置に伴ふ私娼の跋扈

それから一方に於て私娼を撲滅して公娼のみにする事が能れば幾分其目的を達せられるであらうけれども、世界を通じての事實は常に私娼が公娼の何倍といふ多數に居るのであるから、如何に公娼を保護しても到底目的の萬分の一にも到達する事が能ないのは當然であると云はねばならぬ。我國抔でも私娼の數は公娼の二三倍以上に達するであらう。殊に藝妓と稱する私娼の如きは、名を藝事に藉り白晝大道を横行し誘惑に力めつゝある許りか、彼の待合の如き單に名義のみが變つて居る貸座敷業者が到る處に存在する事に依つて、私娼は益々跋扈して居るけれ共、如斯風紀上の網目から洩れて居るにも係らず、當局は奈何ともする事が能ぬのは何ういふ理由

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

であらう。私共は當局の方針といふものが何處に在るかを疑はざるを得ない。けれども夫は當局の考へが抑も間違ひであつて、概して私娼の根絶が不可能事であるといふ事を知らぬが爲めであると思ふ。だから私娼を撲滅して公娼を保護する事に依つて風紀を維持して行うといふのは、最初から失敗する事は判り切つた話で、實に滑稽千萬と謂はねばならない。歐米諸國に於ても隨分之等の手段は盡して見た。尤も我國の夫れとは幾分其間に意味の相違する處もあるが、要するに何れの國でも右の方法で成功した例は殆ど無いのである。當局者も此點に就ては從來の經驗に依つて最早十分會得してたであらうと思ふ。

□豫防の見地に矛盾の存在

以上述べた通りであるが、現在我國に於ける公娼制度は其内第二の點に最も力を盡して居る。此等に關しては屢々本誌の論ずる處であるから、繰返す事を止めて置くけれども、歐米諸國でも矢張り此點を重要視して居たのであつた。併し今日では最早公娼制度の存在を認めぬ許りか、何人も檢黴の効力は絶無なるを悟つたから其必要が無いと云つて居る。無論外の方面から十分其豫防策を講ずるやうになつては居るが、事茲に到つたのは眞に檢黴の無効なるを周知したからである。檢黴に依つて梅毒が豫防されると考へるのは之を以つて見るも如何に頼みにならぬか〻判るであらうと思ふ。花柳病の豫防に就て專門家は斯う云つて居る『豫防する唯一の道は彼等淫婦に接近せぬ事に依つてのみ其危險を排除する事が能るのであつて其他の方法では如何なる手段を盡しても危險を免る事は出來ない』だから何うしても此恐る可き花柳病を豫防しやうとするには、一人宛でも彼等に接近し得ぬやうにするが花柳病取締の最善の道なのであつて、我國のやうに公然と遊廓を保護して居る以上は否が應でも反對の事實が現はれるのは理の當然で何等怪しむに足らぬのであるから豫防の方法にはならぬのである。

第三は極めて淺薄な理由であるから論ずる必要を認めぬが我國に於ても近來漸く其賴みとならぬ事を知るやうになつて來たと同時に、彼等と連絡を保つて犯罪者を檢擧するといふ事は非道理であるといふ考へが漸次當局者の頭に浸込んで來た。例へば近年迄此東京市内には多數の掏摸が居た。警察は之を默許して居た。それは彼等を犯罪檢擧の道具に使ふ事が非常に便利であつたが爲めで、常に彼等は警察の手下となつて力を盡して居たからである。併し之は血で血を洗ふ事に外ならないから斷然其過ちを悟つた當局は今日ではドシ／＼檢擧して少しの假借も與へぬやうになつたが、それと同じ理由で遊廓の如き場所を檢擧の便利に供しやうとするのは全く間違ひである事は云ふ迄もない話である。

□公娼存亡は時期の問題

斯樣に種々の方面から觀察して考へて見ると、公娼制度存置の理由といふ者は頗る薄弱であつて、私共はさう躍起となつて我國の公娼制度を廢止するやうな必要はないと思ふ。沒落の問題は只單に時の問題であつて當局が如何に之を保護し

やうとしても早晩其維持が全く不可能となるであらう。夫は社會の進歩並に國民の思想が漸次發達して來れば、勢ひ歐米諸國の道を踏むやうになるから、公娼制度に存在の理由以外に於ても漸次亡び行く徵候は今日でも手に取る樣に明だからである。元來現在に於ける公娼制度は現代人の趣味に適合して居ない。此場合に趣味といふ言葉を用ゆるのは甚だ宜敷ないが、今假りに此言葉を藉りて述べて見ると、現代の人達の趣味は賣淫は人の弱點で到底之を避ける事は出來ないが、少くとも恥づ可き事だといふ念を抱いて居るのは事實である。

夫が爲め公然と遊廓内に足を入れる事を好まないやうになつて來た。文明人は皆然うであつて獨り我國の今日に於ける狀態が特種の傾向ではない文明の進むに從つてさういふ思想を起すやうになつた。人の前で賣淫婦に戲れるが如き恥しむ可き振舞は他人と自分を侮辱する頗る唾棄す可きものであるといふ風に思想が高まつて來たが爲め、歐米諸國でも漸次穩秘になつたのである。彼國でも矢張我國の妓樓の如きものもあるが、夫等は漸次減少して今日では殆ど其跡方もないといふ。現在の賣淫婦は大槪一つの部屋を持つて、表面では普通の營業者の如き看板を出して堅氣を裝ひ、竊に客を連れて來るやうな手段を用ゆるやうになつたといふ。我國でも早晩さういふ時代が來るのは當然であるから、勢ひ遊廓の存在も社會の役に立たぬやうになつて了ふであらう。既に今日でも最早相當身分のある階級の人達は遊廓に出入する事を好まなくなつて來た。彼の江戶時代に於ける仙臺の伊達公が白晝公然と乘込むやうな其麼馬鹿な眞似をする者はなくなつた。現代人の趣味は其行爲を恥づ可き事として來たから、公然と遊興するやうな事をしないで、待合の如き極めて穩秘的な場所に出入するに至つたのである。だから之が漸次變遷し今日の遊蕩兒の趣味が少しく高尙化されて來れば、待合も又五月蠅くなつて面白くないやうになる。例へば若しも待合に出入する事實が新聞記者や警察官の目にでも止まれば甚だ不安心な種を蒔くといふ懸念から自然穩秘に行はれる樣になつて來る。其うなれば社會の風紀は幾分づゝでも改良されるのであつて、平常私共の叫ぶ主義の第一步に進む事になる。併し之は遠い未來ではない、現に左ういふ傾向になりつゝあるから、我國の公娼制度の廢止といふ事に就ても、左程躍起となつて反對する必要がないやうに思はれるのである。要するに公娼問題は時の問題であるといふ事が此事實に徵しても洵に瞭然な譯である。

□花柳病を傳染病とせよ

如斯綜合して私共が考へて見ると、公娼は當然滅亡する事を知るが、扨て其後の狀態は什麼風に變つて行くかといふ事に就て研究して見度い。現在でも未ださうであるが、若し公娼制度が廢止されたなら其結果は散娼となつて、恐る可き惡結果を齎すやうになると心配する人達が多いのであるが、それは然う心配するには及ばぬと思ふ。私共は此實際問題に就て相當な案を持つて居るから、廢娼の取締に就ては決して前に劣るやうな結果にならぬ事を確信して疑はないのである。それは何うすれば最も適切であるか、其處には種々考ふ可き幾多の餘地はあるけれども、要するに歐米諸國に於て正に到達せんとする處の、卽ち娼婦の檢黴を廢止する事である。

之は人道問題から云つても侮辱するの甚敷者と云はねばならぬから、將來は是非共之を廢止せねばならぬ。而して之に代るに花柳病豫防に關する智識を世人に普及して、花柳病の恐る可き事を十分會得せしめ、强制的ではなく凡て自働的に治療を加へるやうにしたいと思ふ。それには先づ大に敎育が必要であるから、國家が自ら此問題に就ての書物を出版して周く一般に知らしめるやうな事も又最も良い方法であらうさうして遂に丁抹に於る狀態に達するやうに力めたい者である。夫には花柳病を傳染病として取扱ふやうにする事が肝腎である。虎列剌、チブス、赤痢等を他人に傳染せしめるのと同じで、花柳病も他人に傳染せしめる事は平氣でないやうにしたい。丁抹に於ては其目的の下に實行して居る。例へば第三者に傳染せしめた場合には二年以下の懲役に處すといふのである。我國に於て之を實

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

行する事が餘りに酷ければ、先づ最初は花柳病を他人に傳染せしめた事實が判れば、科料位の處罰を設けて漸次其惡い事を知らしめるやうにするのは、國民敎育上に於ても最も必要であるから容赦なく處罰し、夫れが何回も罰せられるやうな事があれば、其罰金高を多くするやうにして、眞に花柳傳染病の智識を周知せしめるやうにしなければならぬと思ふ。

尤も之は無學な人達に對する方法であるが、智識階級者に普及する方法としては、花柳病を自己の妻に傳染せしめた場合には、其妻は不服を稱へて離婚し得るやうに法律に規定して置くことである。つまり現在に於ける離婚條件中に此事を加へるやうにしたい。さうすれば妻は何時でも花柳病を傳染せしめられた夫を離婚し得らるゝやうになる。多數の中であるから或者は夫を忍ぶ者もあらうが、而し之に依つて男子は餘程注意する。又結婚の上から觀ても花柳病に罹つた男子には其看板があるから、婦人は大概躊躇して容易に結婚を行らぬやうになつて來ると思ふ。

□國家累卵の秋

此點から着々歩を進めて行けば、花柳病は次第に減少して目的に添ふやうになつて來る。就中靑年などは從來のやうな亂暴な眞似は出來ないから、從つて多くの人を未然に救ふ事が能るのであらう。若し現在の狀態で置いたなら國民の體質は花柳病の爲めに弱くなるのは瞭然であるから、私共は此點に着眼して歐米諸國に立遲れぬやうに努めなければならぬ。

最近の報道に依つて觀ると獨逸では戰後花柳病を絕滅するといふ考へを持つて居るやうであるが、獨逸にして如斯考へを抱くに到つたといふ事は、餘程花柳病の恐る可きを痛切に感じたが爲である。從來彼國では肺病の撲滅を圖つて、多額の經費を支出し、全國に百七十何ヶ所の治療所を設け、其處で患者を無料で收容治療し、十分手を盡したが爲め今回の戰亂前には餘程減少した。彼治療に最も困難な肺病すらも撲滅しやうとした彼國であるから、花柳病の如きは容易に撲滅するであらうと思ふ。何故なれば肺病は空氣傳染といふ危險性のものであつて、何時如何なる所で傳染するか吾々は之を感知する事が出來ないが、花柳病は必ず男女の不正關係に依つて傳染するが原則だからである。併し多少の例外はあるが十中の八九迄は接觸傳染であると專門家もさう斷言して居るから、個人々々がお互に相當の注意さへ拂へば夫こそ撲滅が遂しられる。獨逸人の體質が他國人のそれに數等優つても劣らぬのは、常にさういふ考へを以て注意を怠らぬからであつて、我國抔では遂此頃迄、花柳病に罹られば一人前の人間になれなかつたといふが如き甚しい謬想を抱いて居たやうな狀態から推しても實に雲泥の差を認めぬ譯には行かぬ。是非とも此際我國民の思想を一掃して各自の責任を深く肝銘するやうにせねばならない。

若し然うでないならば國家有事の際に果して、國家が他の侵害を防止する事を完ふし得るや否や疑問になつて來る。國家の獨立は單に戰術丈では不可能である。其戰術の下に行動する處の軍人の體質が壯健であつて、而もそれが優秀でなければ完全に戰術の目的に添ひ得ぬのは當然であるから、一刻も早く此點に着眼して相當の處置を取り度いと思ふ。それには先づ私共は輿論を喚起せねばならない。前に述べた丁抹の取締案も矢張輿論に依つて出來たやうに、私共は是非共國民全體に花柳病問題に就て眞面目に考究して貰つて、輿論を盛んにし而して國家の福祉と國民の幸福とを完ふせん事に自覺を促し、益々日本帝國の國威を發揚せなければならぬ。夫には此問題に就て十分其思想に到達するやうお互に力めたいと思ふ。私共は一日も早く此輿論の起る事を希望して歇まない次第である。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

大戰亂と廓清運動（其三）

□獨逸戰時の廓清運動□

廓清會理事　油谷治郎七

一　戰爭が生める不道德

千九百十七年二月伯林で開かれたる「獨逸將來の道德問題協議會」の席上、マリアンネ、ウエーバー女史の演說は多大の感動を與へたものであるが、其一節に曰く「現時の戰爭は二つの新しき害惡を齎した。其一は、戰時でなくば善良なる家庭に於て高潔なる生活を爲すべかりし數十萬の青年をして一時的の最も下等なる性慾的耽溺に陷らしむ。其二は、家族と離れて遠征中にある數十萬の已婚男子をして娼婦に近づかしむ。加之、戰線の背後には幾多の軍事上及び智力上の指導者あるが、多くは戰時のことゝて性的關係に於ける亂倫の行爲を耻とせず。而して吾等の殊に悲嘆に堪へざるは、人の妻たり母たる婦人の不倫の行爲の甚しきことである。是等の經驗は來るべき十數年間に於て、無數の婦人をして結婚の望を失はしむるに至るであらう。數十萬の青年は戰場の露と消へて再び還へらず、更に多くの青年は其敎育と其進路を甚しく妨げられたるがために、家族を支ふるに足る裕かなる生活を見出すは容易のことではない。從つて又自然の進路を步む能はざる若き女子の餘剩を多く見るに至るであらう。斯かる狀態は、實に宗敎的節制が緩くなり、一般に道德的懷疑思想の横溢せるときに當つて發生したのである。戰爭に先き立つ久しき以前に於て、所謂「フエルヘルトニス」（一時的の性的關係）を弄ぶことは中流階級並に勞働階級に瀰蔓して醜として怪まぬ有樣であつて、結婚以外に性的關係を結ぶを意に介せず、名譽と貞潔の理想は殆んど地を拂はんとしてゐたのである」。千九百十二三年頃の獨逸の社會狀態を熟知するものは、ウエーバー女史の言は必ずしも誇張の語でないことを裏書するであらう。千九百十五年三月ショルツ敎授はケーニスベルヒの醫學協會で演說して「平時に於ける獨逸の大なる大學生の花柳病患者は百人につき二人乃至三人で實業家のは百人に十六人の割合、大都市の勞働者のは百人に八人の割合である。而して平時に於ては花柳病患者のうち未婚者は其三分二を占め已婚者は其三分一であるが、戰時は正に此反對である」と語られた。實に慄然たらざるを得ない。其後戰線の擴大と共に此狀態は益慘憺たるものである。ブラシユコ博士の報告に依れば西部戰線に於て、至るところの佛國の小都市には必ず三四の娼家あり、獨兵は餓虎の食に於けるが如くに其慾情を肆にす。ショニーには一軒の娼家あり娼婦三人を置けるが、每日娼婦一人に三十人乃至四十人の遊客があつた。衞生警察の嚴重なる取締あるにも拘はらず、密娼の販屋も亦猛烈なる

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ものであると云ふ。東部戰線のポーランド及び露國に於ける狀態亦之に劣らざるは、パブリッツ女史の信ずるに足る報告あり。之に對する廓淸運動の困難は想像するたへたり。

二　伯林警察と陸軍衛生局

千九百十四年八月開戰と同時に伯林の警察長官は嚴令を發し、軍隊の衛生保護のために非常手段を行ふとて、(一)娼婦及び一切の婦人が街上又は公けの場所に於て公衆の風儀を害するがごとき擧動をなすを禁じ、(二)登錄娼婦の飮酒店又は旅宿屋に入るを禁じ、(三)所謂アニミエールクナペンと稱する銘酒屋の給仕女を悉く廿四時間以内に解雇すべきを命じ、若し背くものあれば閉鎖を命ずべしと令した。この結果として有名なる伯林の紅燈銘酒屋の廢業せるもの四百を超へ、解雇せられたる怪しの女の數一千名以上である。是等の女の生活を如何に保障せしか、再び密娼たるを防ぐの手段を講せしか、そは未だ詳報に施せず。

同年十一月二十三日伯林市及びブランデンブルグ縣の軍司令官フォン・ケッセル將軍は令を發した、新聞雜誌に花柳病治療の方法及び人物の廣告を揭載するを禁じた。

固より認許せられたる專門醫の廣告は例外である。是は一面に於て根本的治療を受けしめんがため、又他面には治療を名として却て娼婦の紹介又は誘發を防がんためである。

ドクトル、エルネスト●フィンガー博士の報ずるところによるに、獨逸陸軍衛生局は其智と力とを傾けて、病毒の豫防と撲滅につとめてゐる。

(第一)停車場の食堂に於ては兵士に酒精飮料を販賣するを禁じ、(第二)兵士を載せたる軍用汽車及自働車の大都市に留る時間を成るべく短縮することゝし、(第三)其汽車が長時間停車場に止まることありとも、軍人がプラットホームを離るゝことを禁ず。

又以て用意の至れるを察するに足るであらふ。

三　醫務長官の提案

獨逸陸軍醫務長官ドクトル、ハー・アイケ博士は、戰時に於ける花柳病豫防策として示されたるもの左の如し。

(イ)娼婦に對して行ふべきこと

一、凡て娼婦を毎週一回嚴密に檢査すること。

二、患者は必ず入院せしむること。

三、娼家は一切軍醫局の監督の下に置くこと。

(ロ)軍隊に對して行ふべきこと。

一、軍人若し娼婦に近づきしときは其翌日直ちに豫防掛の醫員に報じて豫防の手當を受くる義務あるものとす醫員は勿論秘密を守るべきこと。

二、上記の命を守らずして花柳病に冒されたるものは所罰せらるゝこと。

三、其病毒を傳染せしめたる人の氏名を告ぐる能はざるものも罰せらるべきこと。

四、軍醫をして毎週一回健康診斷を行はしめ且つ敎訓を與へしむること。

五、花柳病を隱蔽せるものは凡て罰せらるべきこと。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

六、豫防藥及び器械は兵士の營舍に備置くべきこと。

七、性慾に克つも健康に害なきこと、病毒豫防の第一義は娼婦に接せざるにあること、若し過つことあらむか直ちに軍醫に告げて其命を奉じ飽くまで病毒の傳播を防ぐに勉めべきことを明示せる訓示を各兵士に下附し自警心と克己心を鼓舞すること。

この提案は悉く實行せられたるや否やを詳にせず、されども一日三四十人に接する娼婦に對し毎週一回の檢査は何程の効果あるべき、且又娼家を公認して軍醫局の監督の下におくも、私娼の横行を如何にすべき、アイケ博士よりも一層根本的に其政策を提示せる者はブラスロウの教授ナイサー博士である

（一）凡ての娼婦を全く差別なく禁壓し、押し込め而して護れ。娼家あらば悉く閉鎖せよ。少くも專門醫をして娼婦を毎日檢査せよ。

（二）軍隊に對しては日課として強く訓戒し警告せよ。其不注意の甚き者は罰せよ。敵丸に傷くに非ずして不品行の爲に戰友に背くの不名譽と恥辱を痛切に感ぜしめよ。

（三）戰場より容易に達し得べき處に病院を特設し、多數の訓諫ある專門醫師を用ひ、速に診療を受けしむべし。

四　獨逸各協會の努力

伯林のブラシュコ博士の率ゆる「獨逸花柳病撲滅協會」は多く教育的小册子を發行し「戰線に立ち若くは病院に在る軍人に文書を配布する委員」と協力して軍隊間に配布してゐる。「祖國の爲に我身を健全に保持するは各軍人の嚴肅なる義務なり、而して健康を害し、戰鬪力を失はしむる最大の敵は花柳病なり、この大敵に勝つの途は娼婦に近づかざるにあり。若し不幸にして已に此病に冒されたるものあれば速に軍醫に報じて診療を受け其禍を早く防ぐに努むべし。」との主意を敷演せる小册子の如き數十萬册に上る。

「獨逸福音主義青十字協會」は道徳上より不品行を戒むる小册子を軍隊に配布してゐる。其中に曰く「信ずべき報道によれば、獨逸の一都市に於て病院の入院患者一萬人中七百人は花柳病患者である。兵士百人中七人は戰鬪力を失つてゐる」。

「獨逸道徳促進協會」の如き、或は「獨逸婦人協會」の如き、何れも千載一遇の時期に際し各其勢力を傾注して、純潔に身を持すべき事を鼓吹してゐる「新祖國同盟」は午後八時間以後に軍人の營舍外に出づるを禁ぜしめ、營舍内に於て大規模に演劇舞踊等を以て自由に慰樂を得せしむるに努めてゐる。

「獨逸少年保護團」はプロイセン、ザクセン、ウイルテムベルヒ、及びバイエルン四聯邦の陸軍大臣に請願して、軍隊のうちに花柳病の傳播の烈しき事實を擧げ、娼家の害の大なるを示し、左の四項を要求した。

（一）聯隊長及び病院長に命じ、不正當なる性的關係の危害に關して若き士官及び軍人に教訓せしむること。

（二）一切の軍人の娼家に出入するを嚴禁すること。

（三）病院に傷病を養ふ軍人及び健全なる軍人の性格が信認するに足るを見て夜の外出を許すこと、門限は十一時半を過ぐるを許さゞること。

（四）花柳病の傳染と傳染の場所は即時報知すべき事につ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

米國で感じた人形

東洋幼稚園長　岸邊福雄

紐育のコロンビヤ大學内に在るテーチャース・カレーヂ(教員養成所)の幼稚部の主任ミス・ヒルは米國の幼兒教育家のオーソリチーである、學識もあり經驗もあつて米國教育界に重きを爲して居る婦人であるが、此の人の意見に依れば、幼稚園では人形を基本として兒童を保育するがよいといふのである。何となれば人形を基本として育てる事は人道の上から熟慮して案出した事であつて、例へば或は積木を以て家を造らすと、中に人形の寢臺を置いて其上に人形を休ませ、或は人形が家庭を作つた狀態を作つて犬の玩具や猫の類までも置き、或は尙赤ン坊の人形ばかりでなく母親や父親や兄弟になる人形をも與へて遊ばせると、兒童に對して興味と家庭の趣味とを感ぜさせる効果ある爲めである。尙、兒童を勵めて實際生活に接近させて育てることは大切で、例へば兒童に箱を造らせたり、洗濯物をさせたりするのである。箱は人形の玩具や手道具を入れるものである。又洗濯は人形の衣服を洗はせるのであるが、時には人形を湯浴させる形にして人形の身體をも洗はせるのである。此くの如く仕向くる樣にすれば兒童は自然に種々の仕事並びに唱歌やダンスまでも覺える樣になるが、要するに人形を中心として教育するのであつて、斯くすれば兒童は人といふものに接して遊べる樣になるから世界人道上大に利益する所があるといふのである。

此の說は今まで教育家のフレーベル氏も充分に曰はず、モンテソリー女史も氣付かなかつた事であつて、此の兩教育大家の教育の方針或は教具の如きは何れも深く研究されて居るが、誰も此說を明瞭に言表はさなかつたのは、吾々に、猶は研究の餘地を殘して置いたものであると思ふ。其の議論の廣狹は別として此の新

遊廓物語

□不當利得で今日は□
□營業を取消される□

婦人教育係　伊藤富士雄

何時頃からの慣習かは判り兼ねるが、遊廓の貸座敷業者の暴利ることは誰も認めて居る事實であつて、加も何人も之を怪む者は無かつた。夫も其筈である。隨分無鐵砲な暴利方をした事實があつても、從來は其最も重い處分でさへ精々一ケ月間の營業禁止位が關の山であつた。大抵は形式一片の說諭でお茶を濁して居たやうな狀態であつたから、遊治郎の多くは大抵遊廓業者には暴利れるものと極めて掛つて居た。然るに今回は思切つた處分をしたといふ事實が新聞で報ぜられたのであるが、夫れは吉原遊廓京町一丁目辨中村事山下與一が、同家へ寄遇せる娼妓小花と共謀し、登楼客より不當利得を爲したといふ、其金額は三日間に約八百圓といふ多額を、種々の名目を附けて散財せしめたといふのであるが、日本堤署では此不當利得たる違法處分に、其營業を取消すといふ隨分思切つた英斷に出でたのである。併し此處分は法規の上から見て果して英斷に屬す可き者であるか、又、普通處分なのであるか、試に夫等の規則を繙いて見ると

貸座敷引手茶屋營業取締規則

第七條　貸座敷引手茶屋營業者ニシテ本則ニ違反シ又ハ公安ヲ害スルノ虞アリ若クハ他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認ムルトキハ其許可ヲ取消シ又ハ警視廳ニ於テ其營業ヲ停止スルコトアルヘシ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

說は中々面白い所があるので、私も私の幼稚園で此の新說を實際に試みて居る。

此の說は一九一五年の米國報告書に見えてゐる。之れに用ゐる人形は今、日本にも有る縫合せ人形であるが、人形などは中々意義ある教具であると思ふ。日本の今までの教具は習慣の教具に過ぎなかつたが、西洋では新しい教具が日増し用ひられて、米國には人形の病院さへもある。何しろ米國などに比べると日本の幼稚園は微々として振はないもので、數からいふても日本の幼稚園は全國小學校の三萬に比して僅かに八百に過ぎない。これは日本の幼稚園教育に對して社會の人が熱心でない證據である。

米國の子供が客をよく待遇すると云ふ事も私が今度深く感じた一つであるが、是れは子供が兩親から自然に敎へられたもので、私が今度の旅行中に實地に見た事である。それはピッツバークで家庭の實際を見聞する爲めに、私共一行が二人宛に分れ、銀行家ショウ氏の家庭に招かれた友人の話に、友人が玄關に着くと直ぐ令夫人が盛裝して出迎へた。そして夫人は手を膝について『よくいらつしやいました』と挨拶されたので、これはてつきり日本風の家庭で日本語が出來ると思つて話しかけた處が、少しも判らず、後で夫人から說明を聞くと「客が家庭を訪問した時に、第一に暖かい感じを與へて心よく訪問の滿足を與へたい心から、其の前夜日本語の「よくいらつしやいました」と膝に手をつく禮儀とを覺えて、一日でも故鄕に歸つた樣な氣分を味はせ度いと云ふ厚意である」との事であつた。

又私の訪問した敎育局長デビソン氏の家庭では十七八歲の女子大學のカレージに行つてる令孃が、よく話が通じないので私が默つてゐると、其樣が寂し相に見えたのか連れの佐々木氏から家政女學校の校長だと云ふことを聞くと、つか／＼と一冊の本を持つて來て「あなたの學校でも料理を敎へますか、私の方の献立書は是れです」とて見せ「敎へます」と私が答へると、「それでは此の本を差上げます」とて自分のサインを入れてくれた。そうしてかうした話をきつかけに日本婦人の趣味などを聞き、私を飽かせない樣によく氣を利かしてゐるのが私にまで見え、社交上の心配りに感心した。

さあつて、別段大英斷でもないやうであるが、併し吉原遊廓初まつて以來、今度のやうな嚴重な處分があつた例がないさいふ事が最も世人の目を惹くのである。當局の方針では當然斯くある可き筈なのであつて何等怪むに足らぬのであるが、之が爲め吉原遊廓業者の驚愕は並大抵ではなかつたやうであつた。彼等は從來如何なる手段方法を用ゐて不當利得をしても、一向差支ないものさ心得て居たのであらうが、今後は少くさも彼等の腦裡に眞人間らしい考へが抱かれる事であらうさ思ふ。全く當局の其處分はお情あるものであつた。何故かさいふに、若し並大抵な處分であつたなら、拘留若しくは科料さいふ自由刑又は財產刑であるに反し單に營業を取消すさいふのみであるからである。當局の考へでは、不當利得をなするやうな人間は從陸𢿙業者さして、洵に不適當であるから正業に就て勉强せよさいふ、實に慈悲のある處分を採つたものに過ぎない。だから此處置は當局から觀ても、又處分された其人自身の立場から考へても、之を大にしては社會上から視ても、眞に最善の臨機の處置であるさ思ふ。此事件に就き日本堤署の前田司法主任は斯う語つた。

『處分の原因は啻に不當利得の一事實のみではなく其他にも種々な違法行爲があるからである。彼が不當利得をしたのは今回初めてではなかつた。從來隨分縱辺した事で、當方でも度々訓戒を與へて置いたが一向に省みるやうな樣子がない許りか、或は刑事上の事件迄も惹起さんず狀態で、遂に此處分に出たのである。元來なれば違法行爲に對し公訴をして、其上營業を取消すのが當然であるが、情狀を酌量して一方の處分のみ斷行した譯である。今後又廓内に於て違反事實があれば容赦なく嚴罰する筈だ』さ。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

戰後の產業と勞働問題（一）

法學博士　山脇玄

□內地工業の勃興

世界の大勢を達觀し、今回の大戰に鑑みて見ると、各民族が國境を劃して互に相對峙する限り、國防の充實元より忽にすべからざるは敢て呶々を要せぬけれ共、國防の裏面には必ず健實なる製造工業が伴はなくてはならぬ。兩者は宛ら車の兩輪鳥の兩翼の如く、兩々相俟つて始めて完全を期する。早い話がソンム戰で砲彈三千何百萬發、其鋼鐵器二十何萬噸を消費したのに見ても、今の戰爭は決して兵隊の數ばかりで決せられるものでない事が分る。

故に先づ軍需品の原料の生產額を調べ、產出の增進を計り、必要な工業は保護を加へ、煩雜な工業の內容及度量衡を統一し、原料の供給を確實にし、尙其上資本學術勞働を合同一致せしむる事が、最も緊急である。

果して然らば此際爲政者はいふに及ばず、企業者は目前の小利に吸々して戰後殺到すべき商戰に對抗する覺悟と準備とを怠つてはならぬ。斯かる機會に於て萬一にも敗を取る樣な事があつては實に由々敷大事である。

惟ふに今回の大戰亂は、世界列强の軍事財政經濟を始め、文學美術其他社會萬般の上に至大なる影響を齎らしたが、殊に我國商工界には、經濟上の維新ともいふべき新機運を作つた。即ち化學工業品及び原料の輸入途絕減少は、我內地工業勃興の起因となり、產業獨立の基礎を確立するの端緒を得るに至つた。試みに昨六年中の新設工業會社の景況を見るに、實に社數二千二百、資本金一億九千餘萬圓に達し、前年に比し社數約二倍、資本金約四倍の增加である。

年別	新設社數	資本金（万・千円）
明治四十四年	一、〇七五	三、七六一、二
大正元年	一、三八五	三、六五二、八
同　二年	一、四一一	三、一五一、八
同　三年	一、三〇七	三、五四四、二
同　四年	一、二二二	一、七九一、〇
同　五年	一、四七九	四、六一二、一
同　六年	二、二一六	一九、四四八、七

斯かる盛況が平和克復後も持續せらるゝであらうか、吾人は大に疑なきを得ぬ。元より戰亂の繼續する間は、現狀を維持する事左迄困難でなからうけれども、何れの日か平和克復を見るに至らんか、貿易の狀況は大變化を免れないであらう。即ち軍器軍需品、資料品の輸出は激減するであらうし、獨墺兩國の商品が再び市場に出現する爲め、我代用品の需要は勢ひ減少するであらうし、列國は戰後貿易に全力を傾注し

て經濟界の恢復に努め、我國と競爭の態度をとるであらうし、更に列國は戰時産業に集注せる資本と勞働を平時産業に轉換する結果として、現に我國より輸出してゐる物は驅逐さらるゝであらうから、今後とも現時の機運を善導し、内は益々工業の健實なる發達を圖り、外は益々國産の新販路を擴張して所謂商工興國の實を擧ぐるの方策を講せねばならぬ。

□職工に對する待遇

我國は其地理的關係から見るも商業國として優勝の地位を占め、而も今や千載一遇ともいふべき好機會に遭遇してゐるのであるから、多少なりとも聯結ある事業はなるべく合同して其資力を强大にし、之と同時に學術と勞働と調和して一大團結をなし、以て外敵に對抗する覺悟と決心とを持つのが最も大切である。獨逸クルップの如き最大企業に於ては、炭坑も所有すればコークス製造所もある。鐵坑や製錬所や、製鐵所をも所有し、又器械や大砲や其他の武器や裝甲板の如きをも製造し、更に電氣事業石炭及鐵鑛を運搬する河川上及公海上の運送業をも大規模に兼營してゐる。又エルバーフエルト染料製造所にあつては、常に化學的素養ある化學者四百人を使用して、絕へず研究を重ねてゐる程である。されば、莫大なる利益を得たる今日の此好機會に於ては、益々其事業の擴張を圖るべきであると思ふ。若し近眼者流の株主に制せられ、直に之を分配する如きは大に愼まねばならぬ。現に五割以上といふ無謀なる配當をなす會社ある現狀に徵すれば、此際宜敷反省する處なかる可らずである。斯如意外の利得は、之を積立金となし、他日不景氣襲來の場合にも其利子を以て相當の配當をなし得てこそ、深思熟慮に出づる永遠の對策といふべきである。又經濟原理に鑑みるも、實際の經驗に徵するも、資本と學術と勞働とは結合して事業の基礎を鞏固にする事は、各事業にあつて最重最大の緊要事である。近來獨逸化學工業の勃興して、特に英國を凌駕せんとする勢を示せるは全く之が爲に外ならぬ。

其他衞生的の寄宿舍を作つて職工は元より其家族をも住まはせて大家族制となし、之に學校、娛樂所等を附屬せしむる等、彼等心身の向上發展を圖るは、要するに事業の盛大を計る所以に外ならぬ。次に職工側にあつては疾病失業等萬一の場合に備ふる爲め、なるべく多數の同業者を網羅する自治的組合を作り、基金を準備する事極めて緊要である。若し之等の準備を缺かんか、企業者に對して自己の要求を徹底せんとする場合に不自由を感ずべきは言を待たぬ。

現今の戰時に於て、特別の賞與等は増給にてもあるならば、精々之を積立金に繰入れ、不時の用途に充つる覺悟がなくてはならぬ。我國の現狀にては未だ職工の經濟心普く發達し居らざるが故に、企業者が進んで勸誘するに非ざれば、斯かる積立をなす事容易ならざる憾みなしとせぬ。故に其積立をなす際、事情の許す限り、幾分なりと企業家が奬勵的に之を補助する事も又見遁すべからざる良法である。殊に利益分配法の未だ實行し能はざる場合に、せめて此方法を設け、而して利益分配の時、此積立金にも按分比例を以て利子の名儀にて其配當に預らしめるは、最も公平なる處置なりと信ずる。

且つ職工は押しなべて、未だ完全なる普通敎育を受けざる前に、早く既に獨立したる者多數を占むるであらうから、自ら進んで休暇時間を利用し、社會敎育機關によつて之を補ふ事に心掛け、人々一通りの知識を養成しなければならぬ。之が爲め我國企業家に於ても敎育機關を設け、普通敎育だけは普く一般に施すべき事はいふ迄もないとで、詮ずる所事業の成功を期する所以の道である。(つゞく)

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

戰勝の社會的背景

法學博士　吉野作造

（一）戰時の勝利よりも平時の勝利

吾人が歐洲戰爭を見て感ずることは、如何にせば戰勝を得るかといふ事である。尙具體的に言へば如何にして獨逸の如き戰勝を得るかと云ふ事である。此問題に對して多くの人は軍國主義を唱へる。吾人も或る點に於て其眞理なるを認むるも、必ずしも吾人は之に賛成するものでない。吾人の考を以てせば戰勝は唯一の目的ではない。卽ち吾人は或る點までは平和論者であるけれども絕對の非戰論者ではない。露國の風雲急を告げて日本の出兵問題も喧しい折柄、日本も何日かは復た戰はざるべからざる日もあらうから、戰勝の問題は大に考慮せねばならぬ問題である。併し乍ら勝つことのみを重大視せば其他の事を犧牲に供する傾向ある故に吾人は其傾向を嫌ふのである。

戰爭で勝利を得るには先づ平時の競爭に勝たなければならぬ。そこで先づ吾人は第一に平時の競爭に勝つ工夫如何を論じたい。卽ち如何にして戰勝を博するかと云ふ問題を徹底的に考へれば、それは平時に勝を制すると同じ理由であつて之を宗敎道德の完全に期さなければならない。卽ち結論を先に言へば、平和の戰爭、平和の競爭にかけて世界文明に貢献せんとする場合には此の宗敎道德を重んじてかゝらなければならぬことゝなる。殺伐たる戰爭では强い者が勝つが、文明的戰爭で實際勝つとは宗敎道德の組織的なる國に非れば出來ぬ

（二）文明の進步は軍隊を弱くする

如何にして戰に勝つか。第一は兵隊が强いと云ふ事である。併し兵隊の强いと云ふ事は文明社會と伴はぬ。野蠻なる者は戰爭に强いと云ふ事から、あまり人民を敎育することは惡いといふ評判を聞くが是も一理がある。然し昔時、日本武士道の盛であつたのは日本國民の天性に因る所多いであらうが、日本には一種の武士道の盛なるは日本の社會的事情に依るのであつた。昔は俸祿は人に依るに非ずして家にあつた。武士は如何に無能でも百石は貰ふ。それでいざ戰爭と云ふ場合には遺族は少しも困らなかつたのである。然るに今日の社會的事情は大に昔時と異り、今の社會的事情からして吾人は個人的にあらざるを得ない。卽ち今日は皆命も惜しいし金も欲しいと云ふ樣になり、隨つて兵隊も世の進步と共に漸次弱くなるは爭れぬ事實である。然れどもそんなら兵隊が弱くなるから敎育を止めよと云ふ議論は立つかと云ふに此議論は立たない。卽ちいかに文明の進步は軍隊を弱くするかといふて、今

更軍隊のために教育の進歩を阻止することは出來ぬ。且つ文明の進むのは世界各國共通であつて、各國皆平均して弱くなるのであるから一般から見れば文明の進歩は軍隊の强弱に影響しないことにもなる。文明の進歩の爲めに軍隊が弱くなることを他の文明の力に依て防ぐことは望ましいことであるけれども、其は不可能であるから、軍隊教育の短を捨て長を採つて軍隊の弱くなるを防ぐより外に道がない。

(三) 獨逸の將校は皆貴族より出る

さて翻つて考へるに、今戰勝を博して居る國は云ふまでもなく獨逸である、然らば獨逸は文化の高き國なるにも拘らず、かく勝利を得つゝある理由は何故なるやと云ふに、其れは第一國情が自ら國民を尚武的たらしめたるに因る。卽ち昔プロシアの勇武が纏まり付かざる獨逸の國を纏め地方分權の勢力を確立せしめたのに起因する。斯く建國の歷史に遡つて見ればプロシアが武を以て起ちたる故である事が明かである。

其他種々の理由が綜合して獨逸を强からしめたのであるが其の根本的にして世人の見逃すこと能はざるは將校の偉いこと、從つて兵卒の其命令に服從する一種獨特の性質である。而して此特性は獨逸の社會と密接なる關係がある。

獨逸の上流社會には貴族があつて、彼等金のある、名譽ある、歷史ある昔の大名たる人々の間から將校が起るもの多きことは重要視すべき點である。昔日本の貴族は一は公卿、一は大名より成つて居たが、歐洲に於ては日本の公卿に相當する階級なく、たゞ大名があるのみである、日本では政權奉還と共に大名は土地を返上したけれども、獨逸では之に反して大名が土地を占領して了つたのである。此大名の間から將校が出て彼等は財產上に後顧の憂なく而して彼等は實際偉かつた。勿論日本では貴族の子弟は餘り賢ならず、學習院の優等生も大學に入れば落第するものが多い。かく日本では貴族富豪の子弟といへば不成績のものと定まつて居るが、獨逸ではさうでなく、貴族の子弟は一般に賢こい。貴族なるが故に將校になるのではなくして、實際偉いから將校に進むのである。獨り將校のみならず、政治家、教育家、實業家にしても名聲の高い人は皆貴族の出身である。これ歐洲一般の風習である。勿論英國だけは平民にも偉い人はあるが、他の國は一般平民よりも貴族に偉いものが多い。平民と雖も無論高位を得ることは出來ないわけではないが、如何にせん貴族の方は實際競爭場裡に於て成績よく昇進が早い。

(四) 日本の貴族教育に缺陷がある

然るに日本に於ては貴族が平民に劣るは何故なるか。貴族の子弟は平民よりもよく多くの幾多の便宜あるに拘らず、實際の競爭場裡に於て落伍者となるは何故なるか。地位もあり、金もあり、便宜もあり、貴族はどうしても平民に勝たねばならぬ筈であるのに、實際平民に負けるのはどういふ譯か。それは貴族の子弟の父兄が惡いのである。貴族の子弟の模範が惡いためである。貴族の子弟はどんなボンクラでも貴族院議員になれる、大學を十年かゝつて卒業しても彼等の仲間には有識者として知られる。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

此の如く日本の貴族は順調に行かぬが、歐洲では然うでない。讀者は英國の歴史を繙いて見ても判るであらう。グラッドストンの子供は皆偉かつた。又チャーチでもグレイでも其父が皆偉かつた。是は父兄の教育が良かつた故に外ならぬ。日本と西洋とが此の如く貴族に賢愚の差を生ずる所以は日本の貴族の父兄の教育が惡い爲である。故に親を責めねばならぬ、子弟の罪ではない。父兄は子供の教育に對して根本的の考なく只子供が大學を卒業し貴族院議員になつて立身出世すれば足れりとなし、更に宇宙の大なるものと人間との關係を考へないのである。子供を教育するに就て子供を神に近い者とする宗教的情操の立場からしない。自分の子供を教育するは最も神聖なることを考へずしては教育の目的を達することは出來ない。獨逸の貴族の立派に發達するは其奥底に此の宗教的情操あるためである。勿論吾人は獨逸の宗教には滿足しないが、其子弟の心の底に此の宗教的情操を授くる事は嘆美すべきことである。

（五）獨逸の背景をなす宗教的情操

凡そ社會が健全なるや否やを知るには其國民を指導する者が絶えず如何なる精神を有して居るかと云ふ社會的背景を觀ねばならぬ。然るに日本の軍隊の指導者たる將校の精神は如何。彼等は一に軍隊には申譯は禁物であると云ふ思想を養はれ、若し遲刻した兵卒があつて其申譯でもするものなら「軍隊には申譯なし」との一言の下に忽ち將校の掌は兵卒の頰を見舞ふのである。これ日本の軍隊的精神である。勿論服從の德を養ふは軍隊に必要なるも、服從すべきものが違ふのである。然らば吾人は何に服從すべきか。日本の兵隊は上官の腕力に服從するが、尚外に又一種の精神力に服從しなければならぬ。獨逸の軍隊的精神の美しいのは將校が偉いからである。此點に於て吾人は日本の軍隊に甚だ慊たらなく思ふ。日本の軍隊的訓練は只物質上の腕力に依つて兵卒に文句を言はしめざらんとする。尤も此弊風も漸次改まつては來たやうであるが、吾人はまだ日本の軍隊的訓練の惡いのを見て常に遺憾に思ふ。日本の軍隊は監獄であると云ふ評さへあつて、點呼の際などは隨分非常識が行はれ、只壓迫によつて訓練が行はれて居ると云ふ有樣である。其れも田舍出の者ならばいざ知らず、中學でも卒業した青年は皆不平滿々として遣る方なく除隊の一日も早からんことを待つのである。彼等の間には「一將校商買、下士勝手、兵士は五錢二厘で命がけ」と云ふ俗諺が流行して居るさうである。斯の如くでは將校を國民の模範とか一國の選良などとは迚も云はれまい。軍隊が強く其國が強いと云ふ事には將校の技倆が根本の問題である。其處に至れば獨逸の將校は流石に偉い。而して獨逸の將校は貴族である。此貴族から將校が輩出するのは即ち其兵の強い原因である。獨逸の軍隊が平素頻る規律正しく秩序よく訓練されてあるのが即ち獨逸の今回戰勝を得たる所以の社會的背景である。即ち戰勝の原因を尋ぬるには軍國主義其のものよりも吾人は此の主義をして成功せしむる所の背景を爲す獨逸の社會の狀態を見ねばならぬ。而して獨逸の社會が貴族的精神に依りて背景づけられて居ることを認めねばならぬ。（文責記者）

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

女大學新評論（二）

『男女道德論』著者　一條忠衛

第三には「男子よりも親の敎緩にすべからず」と云ふ、道德的規範がある、これは親の敎を男女によつて區別したものである。卽ち人間の道德を男女によつて區別し、其の間に輕重の差を設けたものである。之れに對しては今日まで色々な異見があつた。福澤氏によれば下の如く觀せらた。

「父母の子を敎訓するは甚だ嘉し。父母たる者の義務として遁れられぬ役目なれども、獨り女子に限りて其敎訓を重んずるとは、抑も立論の根據を誤りたるものと云ふ可し。――此一章の文意美は則ち美に似たれども、特に男子よりも云々と記して男女を區別したるは女性の爲めに謀りて千載の憾と云ふも可なり」と福澤氏は親の敎訓を男女平等にすることを主張されたのである。共に我が子であればその敎訓に於て高下なく輕重なく、之れを同律に規定しなければならぬと云ふのが福澤氏の根本精神になつて居る。これに對して吉田熊次氏は「女大學の研究」に於て左の如く反駁されて居る。「形式上よりは女大學と福澤氏の新女大學との精神の相違せる第一の點は、女大學にありましては、男子と女子とは平等なものでない、同等なものでない、其間に本質上差等のあるものであると云ふ見方を取つたのであります」然るに福澤氏は是に反對しまして、男子も女子も其本質上違はぬものであると云ふ說で、この點が兩者の根本的相違と考へるのであります」と云つて、男女の差別觀を立て、女大學の主義を正當と解し、男女の平等觀を否定されて居る。余の意見によれば、男女は人格者としては人間たる點に於て平等の權利義務を有して居り、個性者としては男女たる點に於て差別の權利義務を有して居ると思ふのである。（拙著男女道德論第四章參考）。それで女子は人間としては平等の敎訓を親から與へられなければならぬ人格者であるが、女性としては差別の敎訓を親から與へられなければならぬ特定人である。福澤氏の主張は專ら女大學の作者が男女を人格者として、人間として、平等に取扱つて居ないことを痛論されたので、女性としての差別的敎訓の必要なことは第二章に至つて力說されて居る。女大學は家庭主義に存する男尊女卑の思想によつて書かれたのであるから、全篇を通じて男子本位で女子に對する道德の苛酷なのは自然の勢である。故に先づ卷頭に於て「男子よりも親の敎緩にすべからず」と規定したのである。それで男子が親の敎を緩にする場合でも、女子は之れを緩にしてはならぬと云ふのである。それは女子は成長して他人の家へ行き、舅姑に仕へる宿命者である爲めである。かゝる宿命を帶びて居るのが女性であるから、その個性の上に男子よりも重い道德的義務を負うて居ると說くのが女大學の精神であるけれども、之れは果して女子の個性であるや否やと云ふに決してさうでは無い。女子は人間として人格者として生きんとすれば、却つて他人の家へは行かずに、舅姑には仕へずに、自己の家を作り、一夫一婦の和合を以て良妻賢母たることが個性で無ければならない。女子をして猥に他人の家へ驅り出し、舅姑の奴隷たらしむることは、女子の人格を害し、人間の靈性を辱しむる行爲である。それで娘に對する親の敎訓なるものは、娘を奴隷にすることでは無くて、娘の自由を解放して男子と共に平等に理想的人格者に向上せしむる性質のもので無ければならない。此點に於て女大學が「男子よりも親の敎緩にすべからず」と規定したのは男女人格の平等見を無視したもので、その差別觀は眞個の女性を捉へたものでは無く、全く男尊女卑の遺習により、女子に一段の苛酷なる道德を科した桎梏であると謂はねばならない。

第二章　批判

一　女は容より心の勝れるを善とすべ

し。心緒無レ美女は心騷敷、眼恐敷、見出して人を怒り言葉訇に物言さがなく、口謦て人に先立ち、人を恨嫉み、我身に誇り人を誹り笑ひ、我人に勝貌なるは、皆女の道に違るなり。女は唯和に隨ひて、貞信に情ふかく、靜なるを淑とす。

この章は三項に分れて居るが、第一項は『女は容よりも心の勝れるを善とすべし』と云ふ道德的規範である。これは女子の個性に淵源した道德であつて、婦德としては蓋し千古を通じて動かぬ道德である。女大學が第二章の初にこの規範を掲げたことは、倫理學から觀ても頗る當を得たことである。人類に於ては、女子の容貌體格は一般的に男子よりも美に出來て居て、且つ女子はこの美を要求する先天性を有して居る。これは素より一面に於ては、男女共通な審美心の藝術的要求でもあるが、女子が殊更にこの美を男子よりも多く要求する譯は、一面に於て人類の生殖事業に就いて、男女の和合に關して女子の所動性に由來する本能作用である。女子は自己の容色に注意し、粉黛を施し、美服を纏ひ、女性の所動性を發揮して、男子の能動性に對するは自然の勢であらう。道德では直接にこれを禁ずる理由がないばかりで無く、却つてこれを奬勵しなければならぬ形である。けれども、女子が男子の能動性に對して、自己の所動性を發揮して、男女の和合を確實にせんと欲するならば、單に容色の美を發揮したゞけでは其の要求を實現することは覺束ない。何となれば、男女の和合は人格的で無ければならない。それで一面に於ては肉體的理解であると同時に、他面に於ては精神的理解でなければならない。ところで男子の女子に對する人格的理解は、女子の容色に對してのみ存するのでは無くて、特に品性の上に儼存する。顏が艶麗玉のやうであつても、心が蛇であり鬼であつては、妻とするに足らない。姿が清楚で芙蓉のやうであつても、身に惡行多ければ之れを愛する所以を知らない。心が清淨であり善行多ければ、顏や姿は振はずとも、君子はこれを愛し得て餘りある。それで女子に對しては其の個性の上から『女は容より心の勝れるを善とすべし』と云ふ道德的規範を生ずるので、女大學がこれを明記したことは用意周到であつた。

然るに第二項に至つて、女大學は下の如く教訓して居る。「心緒レ無美女は心騷敷、眼恐敷、見出して人を怒り、言葉訇に物言さがなく、口謦て人に先立ち人を恨嫉み、我身に誇り人を誹り笑ひ我人に勝貌なるは、皆女の道に違るなり」と。これは第一項の意を受けて女子が心の勝れることの必要な次第を論證したのであるが、不幸にしてそれが酷い誤解に陷つてゐる。女子が心の勝れることの必要な所以は、全く容色の勝れることに對する比較上から生ずるので、化粧に憂身をやつすよりも心の修養に勉めることが大切であると云ふ趣旨で無ければならない。然るに女大學はこの心の修養を男子に對する比較上から論じて居る。「心緒無レ美」と云ひ「心騷敷眼恐敷」と云ひ「人を怒り」と云ひ、「言葉訇に物言さがなく」と云ひ「人を恨嫉み」と云ひ、「我身に誇り人を誹り笑ひ人に勝貌なる」と云ふが如き德目は、是れ悉く男女共通のもので自己に對する道德として萬人を律して居る。然るにこれを單に女の道と解して、男子の道德に對峙せしめ、此等の女の道に從ふことが容よりも勝れる所以であるとは、甚だ見當違な議論である。女が容よりも心の勝れることを必要とする說明として、男女共通の道德を携へ來つて、之れを奉ずるのが卽ち容よりも心の勝れるもので、女の道であると云ふのは譯の解らぬ說明である。之れに對して福澤氏は下の如く批評されて居る。『此章に於ては特に文を婦人の一方に持込み、斯の如きは女の道に違ふものなり、女の道は斯くある可しと 女ばかりを警しめ、女ばかりに勸むることは、其の意を得難し。例へば女の天性妬嫉するの約束なるが故に、妬嫉中は斯く

〱の攝生す可しと、特に女子に限りて教訓するが如きは至極尤に聞ゆれども、男女共に犯すべからざる不義を書き並べ、男女共に守る可き德義を示して、女ばかりを責るは可笑しからずや」と。

この男女共通たるべき道德に對して、特に女子に向つて力說して措かざる所以のものは、全く男尊女卑の差別に由來したからで、女子に對して一段の過酷なる道德を課した譯である。殊に第三項に至つてこの思想は極端に發揮されて居る。同項には『女は唯和に随ひて、貞信に情ふかく、靜なるを淑とす』とある。この道德的條文に含まれてある德目をも少し明瞭に整理すれば、柔順、貞信仁慈、靜淑の四德となる。さうして之れを倫理學上より解釋すれば、先づ柔順といふ德は他人に對する德であつて、正義の要求に對して自己の義務から之れを果すことである。それ故親の要求が正義である場合には、子は自己の義務上よりして親に對して柔順でなければならない。又た子の要求が正義である場合には、親は子に對して柔順でなければならない。同じやうに舅姑又は夫の要求が正義である場合には、嫁はこれに對して柔順でなければならないし、又嫁の要求が正義なる場合には舅姑又は夫は嫁に對して柔順でなければならない。それで柔順といふ德は、親子の差別なく、男女の差別なく、社會的生活を爲して居る人間たる者には當然性として存するのである。然るに女大學では『女は唯和に随ひて』と教訓して、女子を無條件的に男子に盲從させることを企てゝ居る。女子がこの柔順の德を奉じて男子の不正義なる要求を懾服して奴隷となつて居れば、それが容よりも心の勝れる賢婦であると解釋するのである。殊に『貞信に情ふかく』とあるやうに、女子は貞操を男子よりも多く強ひられ、夫が妾宅に起臥して居る場合でも、花柳の巷に惑溺して居る場合でも、妻はこれを恨み嫉むことがなく、大に情ふかく仁慈同情の心を注いで、愛らしき我が夫よと云つて讃美して居なければならない。これを恨み嫉み、心騒がしく恐ろしく、言葉あらゝかなるは、靜淑の德に缺けた者で、女の道に違ふた者となる、女大學第二章は斯うして、女子に柔順、貞淑を強ひることを甚だしく『女は唯』といつて無條件的差別觀から獨斷的に女子の個性に關する道德を規定して居る。女大學は固より女子の教訓書であるから、男女共通の道德を女子に向つて說く場合に假に女子の道德と爲すことは差支ないが、この場合には女子の個性的道德と差別して置かなければ、誤解を招く虞がある。『女は唯和に随ひて、貞信に情ふかく、靜なるを淑とす』といふ條文を、男女共通の道德たるべき四書五經や益軒の大和童子訓から引き抜いて女子の道德として掲げたとしても、これを江戸時代の道德から檢證すれば、四書五經や大和童子訓を讀んで居た男子が或は妾を有し或は花柳の巷に出入して居たに拘はらず、女子はその娼妓に至るまで男子に對して女大學の規定通りに和に順ひて貞信に情ふかく、靜なるを淑として之れを遵奉して怠らなかつた。これに由つて觀ても男女共通の道德を個性的道德と混同して、女子に向つて之れを力說して、男子に向つて冷淡であつたことは掩ふべからざる事實である。これが爲めに江戸時代に於て男尊女卑の片務的道德が社會的に確立されて、男子は無條件的差別觀からして女子に過酷なる道德を武斷的に施すに至つたので

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

ある。『女は唯和に隨ひて、貞信に情ふかく、靜なるを淑とす』と云ふ道德的規範は、その時代思潮の標語であつて、大正の今日に於ける我國の細君等が夫の前に出れば、一も二も無くこの舊幕時代の傳習に捉はれて、夫の不正義なコンミツシヨンに就いても和に隨ひ、夫の茶屋遊びに對しても貞信に情ふかく、遂に妾と同室するに至つても靜に淑である。

新派の悲劇を見て居ると、日本の若い女主人公は殆ど同一な型に出來て居る。若い娘が父母や親戚から嫁入を強ひられる場合や、妻が夫に虐待される場合や、雇女が雇主に虐待される場合や、妙齡の處女が惡漢の爲めに誘拐された場合なぞには現在に於ける日本女子は殆ど申し合せたやうに、和に隨ひ貞信にして情ふかく、靜に淑である。男子の不正義に對して之れを論破する辯舌がない。之れを叱責する勇氣がない、男子が眼を怒らし拳を振つて一擊すれば、それで既う縮み上る。若し三尺の秋水を以て脅し、拳銃を以て威せば、既う蛞蝓のやうに柔かになつて、殆ど喪心して了ふ。然るに今日の西洋婦人はかう云ふ場合になると中々雄々しくなつて、殆ど男子と同じ勇氣を振ひ起こす、活動寫眞によつて西洋の近代劇を見て居ても想像が附くが、男子の不正義に對する場合には女子はこれを論破しこれを叱責するばかりで無く猛然として怒り、憤然として肉迫する。男子がこれに腕力を加へんとすれば、矢庭に針を刺して重傷を負はせたり、ビールの空瓶などを採つて男子の眉間を打ち割つたりする。明治以前には我國の女子も短刀を懐中して居て、この武器の力で兎に角自己の人格を擁護することに努めたから、今日の女子よりも氣骨は稜々たる有樣であつた。然るに武器を取り上げられてからの日本女子といふものは、すつかり意氣地なしに成つた。武器なしに精神上の勇氣を振つて正義人道の上より、人格の權利義務として男子の亂暴を制する力が無い。然るに西洋の女子にはこれが有る。彼等は赤手空拳で見事に男子を後に瞠若たらしめて居る。スカートの裾を男子が踏んだゞけでも根本的に謝罪させなければ止まない。一語の侮言を加へられても男子を法廷の俎板に載せなければ感情が晴れない。小指の皮を擦り剝かれた丈でも、數千圓の損害賠償を請求する。これは男女は互に禮義を守り、相尊敬して苟も不正の行爲を爲すべきで無いといふ男女道德の鞏固なる觀念に由來して居る。然るに偶ま男子より不正を敢て爲されゝば甚だ不愉快で自己の人格を侮辱された思が强烈に起る。この場合に西洋の女子はこれを自己一人の問題と爲さずに女性一同の問題と解して公憤の上より、件の男子に對して社會的制裁を加へて、社會の正義を防衞するに妙を得て居る。この場合に日本の女子ならば、寛大とか靜淑とか忍辱とか云ふ道具立によつて判斷し、假令けだ物と罵られても、或は髮を摑んで巴型に振り廻はされても、泣き寢入りになり、男子の後悔する時節の到來するのを夢に持つことにする。男子の道德が社會的に進步すれば、再び女性に對して斯んな無禮の振舞はなさぬであらうと考へたりする。それが男子に對して抗論したり、訴訟したりするなぞは、淑德のない莫連女と看做されて居る。その結果は何うであるかと云ふに、日本の男子は到る處に於て女をけだ物と罵り、髮を摑んで振り廻して居る。そして男子

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

は決して後悔すること無く、また男子の社會的道德は何時になつても進歩する形勢が無い。

これは皆女子が社會的制裁力が微弱な爲めである。女子が男子の不正義に對して抗論し、これを國家の保護の下に法廷に爭ふこと頻出して、男子を酷い目に遭はせ、手ッ嚴しい制裁を加へる結果として、男子一同に對して社會的恐慌を來たし、從つて有德の君子に成らざるを得ないことになるのである。現在の日本女子は男子に對して無政府主義であり、無爲にして治を爲さんと夢を見て居る。或は司法の力により、或は行政の力により、或は立法の力により、立憲的に政教一致の上から男子の社會的道德を向上せしめやうとしない。唯だけだ物と髮を摑んで巴型に振り廻されても、尙ほ甘んじて以つて和に讀ひ、貞信にして情ふかく、靜なるを淑として居る。丁度、これは暴君に仕へて虐待に甘んじて居る愚民と同樣で、全く自己の人格を知らぬ未開人の行爲である。女大學は其敎科書であつた

第三章　批判

一　女子は幼時より男女の別を正くして、假初にも戲れたることを見聞しむべからず。古への禮に、男女は席を同くせず、衣裳をも同處に置ず、同じ所にて浴せず、物を受取渡す事も手より手へ直にせず、夜行時は必ず燭をともして行べし。他人はいふに及ばず、夫婦兄弟にても別を正くすべしと也。今時の民家は此樣の法をしらずして、行規を亂にして名を穢し、親兄弟に辱をあたへ、一生身を空にする者有り、口惜き事にあらずや。女は父母の命と媒酌とに非ざれば交らずと、小學にも見えたり。假令命を失ふとも、心を金石のごとくに堅くして、義を守るべし。

この章はや丶長い文であるが、家庭敎育、男女交際、結婚等に亘つて、女子の道德的規範を規定して居る。福澤氏はこの章に對して、主として家庭敎育から大要左の如き評論を下された。

「幼稚の時より男女の別を正しくして、假初にも戲れたる事を見聞せしむ可からずと云ふ。卽ち淫猥不潔のことは目にも見ず、耳にも聞かぬやうにす可しとの意味ならん、至極の敎訓なり。是等は都て家風に存することにして、稚き子供の父たる家の主人が不行跡にて、內に妾を飼ひ、外に花柳に戲るゝなどの亂暴にては、如何に子供を敎訓せんとするも、淫猥不潔の手本を近く我が家に見聞するが故、千言萬語の敎訓は水泡に歸す可きのみ。——曾て東京に一士人あり、頗る西洋の文明を悅び、一切萬事改進進步を氣取りながら、其實は支那蠻の西洋鍍金にして、殊に道德の一段に至りては常に周公孔子を云々して、子女の敎訓に小學又は女大學等の主義を唱へ、家法最も嚴重にして、親子相接するにも賓客の如く、曾て行義を亂りたることなく、一見甚だ美なるに似たれども、氣の毒なるは主人公の身持不行儀にして、婬行を恣にし、內に妾を飼ひ、外に賤業婦を弄ぶのみか、此男は某地方出身の者にて、鄕里に正當の妻を遺し、東京に來りて正に第二の妻と結婚して所謂一妻一妾は扨置き、二妻數妾の滅茶苦茶なれば、子供の嚴父に於ける唯その嚴重なる命令に恐入り、何事に就ても唯々諾々するのみ。曾て之に心服する者なし。歲月の間に其子供等は小學を勉强して不孝の子となり、女大學を暗誦して婬婦となり、儒敎の家庭より禽獸を出したるこそ可笑しけれ。」

福澤氏の批評は正鵠を得たもので、頗る痛快である。その家庭に於て男女道德が亂れて居つては、如何に子供に貞操を督勵しても駄目である。「假令命を失ふとも心を金石のごとくに堅くして義を守るべし」と敎訓しても効果がない。親が子供の貞操を養護し、男女道德上の人格者たらしめんとするには、親自身が先づ假初にも戲れたることを見聞せぬ人に成らなければならぬ。歌に「橫に行く蟹が敎へた蟹の子に直ぐに這へとは無理な親蟹」といふのがある。味ふべきである。

次にこの章には、「古への禮に、男女は席を同くせず、衣裳をも同處に置ず、同じ所にて浴せず、物を受取渡す事も手より手に直にせず、夜行時は必ず燭をともして行くべし。」とあるが、これは禮記を指したのである。禮記の內則には左の如く記されて居る。「外內不レ共レ井。不レ共ニ湢浴一。不レ通ニ寢席一。不レ通ニ乞假一。男女不レ通ニ衣裳一。內言不レ出。外言不レ入。男子入レ內不レ嘯不レ指。夜行以燭。無レ燭則止」これは支那上古の風俗であつて、今日これを全部適用し得るものでは無い、男女席を同じくせず」といふやうな事は到底今日の世に行

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

はれないのみならず、之れを行ふは却つて女子を侮辱し虐待することになる。男女七歳になれば、小學校に入れて同室で混合教育を爲し、更に大學に至つても男女肱を接して、人格の修養をすると云ふ時代になつて居る。「物を受取渡すに手より手へ直にせず」とあつて、日本では扇の上に載せて出したりして居たが、今日では男女が始めて相知れば互に手を握るのが國際的禮儀になつて居る。「衣裳を同じ所に置かず」と云ふのは今日でも行はれて居る。夫婦でも兄弟でも各自に私室を有して、自分の室に自分の物を納めて置くと云ふことは肝要てある。女子の化粧道具や洗濯物などを男子の押入に突込んで置くなどは不見識である。「同じ所にて浴せず」と云ふのは今日でも正しいことである。湯屋の浴槽も男女別々になつて居るし、家庭では男女は交代して浴して居る。たゞ海水浴場のやうな所では、夫婦や兄妹には監督關係があるし、又一般の男女が廣い海中に入るのであるから、之れを取締る柵が無いので、大自然の浴槽に漬つて性の差別なく、眞砂同然に磯の波に漂ふて居るは已むを得ないとである。

それから此の禮記の內則では男女の交際を禁じて居る。「男女は席を同くせず」と云ふ大禁札が立てられてあるから、若い男女が自由に相知る機會が無く、相語る場所が無く、相互の人格を理解する方法は固より無く、互に戀愛することは絶對に出來ない仕掛になつて居る。それで小學でも「女は父母の命と媒酌に非ざれば交らず」と規定されたのである。卽ち父母や媒酌人が娘の夫としての候補者を自己の人生觀によつて物色してから後に、父母の命令として其の男子と交ることを許可されるのである。そこで娘は父母や媒酌人からの又聞によつて其の男子の人格を信用し、その晩から知らぬ男子を所夫として奉ぜねばならぬのである。性格や趣味や才能や、教育の人格や一切の理想に對して、大なる不滿足を有して居る場合でも天の與へた良人として之れを愛さなければならない。酒を飲んで狂亂し、花柳に出入して產を失ひ妻子を打擲して亂暴狼藉を極める男子であつても、これに盲從して奴隷的奉公を爲さなければならない。假令夫の花柳病を感染して、皮膚は瘦せ肉は落ち、骨がらみとなり、命旦夕に逼つても、父母の命じた夫を棄てゝ去る譯には行かない。男女の平等觀の上に自由交際によつて人格的戀愛の上に結合した夫婦であれば、この道德的規約を裏切つた場合にに妻は斷然として夫に對して離婚を言渡すことが出來るが、家族制度の男尊女卑觀の上に父母の命令によつて結んだ夫婦であれば、夫が如何なる不行跡を爲しても、一旦他人の家へ呉れ渡された女の身の上であるから、こゝを墳墓の地と賴んで、儚なき一生を草葉の露に消されねばならない。男女道德の人格的戀愛を知らぬ女子の末路は實に斯の如くである。「今時の民家は此樣の法をしらずして行規を亂にして名を穢し、親兄弟に辱をあたへ、一生身を空にする者有り、口惜き事ならずや」と云ふは却つて、女大學を奉じた女子の末路を弔つた詞である。父母や媒酌人の干涉を斥け、自らの人格より出發して理想の愛人を求めて結合することが、新人の德であり、これこそ女大學と申すべきである。「假令命を失ふとも心を金石のごとくに堅くして義を守るべし」とは、父母や媒酌人の干涉に對する場合の護身用と解すべきである。女大學が支那古代に於ける禮記不健全なる男女道德のを飜譯して、江戸時代の女子に强要したことは、實に女性の爲めに千載の恨事であつた。（未完）

□傳說にいふやうに「女子は惡魔の道具である概して無邪氣であるが、一度惡魔がこれに智慧を借して惡魔の仕事を手傳はせると、其時には見よ彼女は卑賤な行爲をなすために、實に巧妙な、千里眼的な思ひ切つた不義を演ずる。けれども多少なり高尙な事を何かしなくてはならない時になると、至極簡單な事すらも理解し得ず、又未來の事にも解釋を持ち得ず、忍耐もなくなれば決心も鈍る」と斯樣な言葉は基督教精神のない女子、及び無貞操な女子にいふ言葉である、噫我々は女子に向つて純潔な女性といふ意義を示す事を切に望む

□性慾による犯罪ほど人々が努めて隱蔽しやうとする反道德的犯罪はない。性慾に關する犯罪ほど種々複雜な形式で人を陷れる一般的な反道德的な犯罪はない。性慾犯罪ほど、或は恐ろしい罪惡であるとか、或は極く普通な慰安乃至快樂であると云つた樣に樣々矛盾した見方をされる反道德的な犯罪はない。性慾犯罪程僞善を伴つた犯罪はない性慾犯罪程人としての道德的階梯を明示する犯罪はない。

□五官を愛撫するの餘りの發明、例へば綺麗に裝飾した家屋、家具、恰好のよい立派な服裝、音樂、芳香、風味の高い食物、觸覺の快感を唆る滑かな物の表面の如きは皆淫慾を興奮させるものである。光綫、光線、太陽、樹木、草、空の美、又肉體にしても美しい化粧裝飾をしない肉體の姿、又小鳥の歌聲、花の香、粗食、果實自然物の接觸は淫慾を刺激しない。淫慾は電氣の光、裝飾、美衣美服、芳香、肉食、滑かな表面によつて刺戟されるものである。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

酒色の五大損失

立教大學長
郡酒會評議員 哲學博士 元田作之進

一、經濟上の損失

今日造酒の爲めに費す所の米が年々三百萬石以上なりと云ふ。米の總收穫が一年に六千萬石とすれば其二十分一は酒の爲めに費されて居る。一人一年の食料米が平均二石とすれば年々三百萬の人が酒の爲めに米を奪ゝれて居る譯である。經濟上非常なる損失と云はねばならぬ。

放蕩より生ずる損失は之を正確なる數に現はすことは出來ない。出來ないではないが、餘程の時間と手數を費さねば不可能である。然し東京各地の遊廓に於ける客の支拂高は何の位であらうか。之を全國の遊廓收入高と合すれば何の位に上るであらふか。若し其遊蕩費を生産的の社會事業に投ずることを得たら人々はどんなものであらふか。遊廓營業に直接間接に關係ある人々が悉く他の正業に轉じたる場合には國家の爲めに多大の利益となるではあるまいか。此等の事を差引勘定して見たら人々は單に經濟の上より見ても放蕩ほど有害無益のものはあるまいと思はる。

二、健康上の損失

大酒家には腸胃、心臟、肝臟、脾臟等を害するものが多い。溜飲患者が多い。又吐血、卒中風等にて斃るゝものが多い。肺結核の如きも飲酒家に多い、放蕩ものには花柳病と云ふ恐ろしきものが附き纒ふて居る。世に社會の四大病と稱して肺病、癩病、花柳病、酒毒が擧げられて居る。癩病だけは酒色に關係がない樣であるが、其他は酒色が其全部或は一部の原因をなして居る。酒色の爲めに體力が弱くなる。體力が弱くなれば、抵抗力が薄くなる。抵抗力が薄くなれば一寸した病氣にも犯され易い。從つて酒色の人には短命者が多い。

三、人類の損失

酒色は人類繁殖の上に一大損失であるリッピッと云ふ人が生殖力に關して調査したるものによれば男子飲酒家に生殖力の缺乏せるもの多く、女子飲酒家に不姙娠者多しと云ふ。サリヴアンと云ふ人がなした小兒死亡率に關する調査に依れば、生後二ヶ年以内に死亡したる小兒中其二割四分は母非飲酒家で、其五割五分は母飲酒家であつた。佛人ブルヌヴイルの調査に依れば飲酒家の子供に白痴痴鈍、及癲癇の兒童が多いとの事、梅毒の結果は蓋し此れよりも甚しいものであろふ。放蕩家の子に不具者も出來る。相當に繁殖すべき筈のものが酒色の爲めに其力を削減せらるゝのみならず虛弱者低腦者、不具者を産むに至つては實に人類として耻ち入つた次第ではなかろふか

四、精神上の損失

酒は一般に人の精神をして常規を逸せしむるのである。怒り、泣く、憂ふ、笑ふ、此處に第二の人格を露出するが如き感がある。第一の人格は忍耐して居つても第二の人格は荒れ出すと云ふ有樣である。放蕩家の心理狀態は飲酒家とは確に異つて居るが、常規を失する點に於ては同一である。合理性を痲痺して仕舞ふ、道

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

理では成程と思つても一旦狂つた心の駒は容易に御することが出來ぬ。終に自殺をするものもある。

自殺の統計を見るに年々一萬人以上の自殺者があるが、其中「痴情に依り」「淫逸放蕩の末」「私通妊娠を憂て」などが原因となつて居るものが可なり多い。無論「精神錯亂」と云ふのが自殺の最大原因であるが其精神錯亂の原因は何であるかと云へば矢張り酒色が其一原因であると云はねばならぬ。

五、道德觀念の損失

酒は人をして道德觀念を虛弱ならしむ酒の爲めに亂暴な行爲をなし酒の爲めに人命を毀傷し、酒の爲めに他人の感情を害し、酒の爲めに義務を怠り、酒の爲めに一生を誤るもの少くない。放蕩は他人の人格を毀け、他人の貞操を破り、他人に對して義理を缺き、虛僞を言ひ、竊盜をなし、遂には强盜まで働くに至ることがある。酒色に耽るものは親を泣かしめ子を泣かしめ、妻を泣かしむ、全く家庭の平和の安樂を破壞し了るのである。

酒色の及ぼす損失又大なりと云はねばならぬ。

□醫師から世の父親へ

醫學博士　藤浪鑑

大阪朝日に連載された「美人に生れた啞娘」を讀みて、私は父親の放蕩の結果が圓滿なる家庭を破壞し妻は愛兒を棄てゝ家を去り、娘は父の病毒遺傳の爲に生れもつかぬ不具聾啞となるのみか妙齡二十二歳の花の身をあたら鐵路の露と消えるに至つた人生の悲劇は實に痛しき限りであると思つた。世間には斯うした父親の不身持より起る悲劇は多くあることゝ思ふがこれらは皆父親其の人が品行を愼むだならば、斯かる悲劇は起らず家庭は常に春麗かき平和であるべきであるから父親たる人は此の點に大に注意して貰ひたいものである。可憐の啞娘は父親の黴毒が遺傳したものであると云ふが、實際遺傳黴毒は幾多恐るべき病毒を子孫に遺すものである。一見美人にも知られるのは身體各所に發きる腫物、發疹や鞍鼻、鼻加答兒、口頭加答兒の類であるが肺炎、肝臟脾臟、腎臟等の體內臟機を冒すもの、眼に來ては角膜炎、脈絡膜炎虹彩炎、網膜炎を惹起し骨の發育に變化を來す等の症狀が多く遺傳黴毒にあることは、吾々が死體解剖の際病原體を多く發見することによつて明かである。斯かる疾病を惹起するのみならず、旣に胎兒が母體にある時冒されて流產死產する例は殊に多いのである。

胎兒が度々流產する家庭は十中八九は黴毒性疾病の關係であると思ふ。一遺傳黴毒と云つて居るも醫家の間には遺傳と傳染との兩說あるも病毒の子孫に傳はるとに於ては同一である。そして、世間ではよく全然健康なる母親が、父親に黴毒があるために黴毒性の兒供を生むと云はれて居るが是はあり得べからざる事であつて、病狀としては現はれて居なくとも母親にも無論黴毒性を有して居るものである。而して黴毒の傳染し易いのは第二期の時であつて慢性黴毒となると却つて傳染することが少いやうであるが、必ず傳染の虞なしとはいひ難い。黴毒の害毒以外痳病の如きも父親の放蕩が溫かき家庭の圓滿を缺き悲劇を惹起するものと思ふ。結婚後間もなく妻君が子宮病や關節炎を病むのは大抵夫の痳病を感染したものである妻の子宮內膜炎の十中八九は夫の放蕩より來るものである。又父親の痳病が子女を盲目にした例は尠からずある。大酒家の子孫に精神病者や白痴が多く生れるのと共に世の父親なるものは、大に留意すべきことであると思ふ。私は常に思ふ。疾病の大部分は不節制の爲め自分より起したものか、あるひは親の報を受けたものであつて、自然的に來るものでないと信ずるのである。

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

花柳病の慘毒

醫學博士　藤浪剛一

私は昨年の夏、アイヌ人の病氣等に就て種々調査した事があつた。其當時の彼等の人口は幾何あるか知る事が出來なかつたけれども、其前後に於て其筋より發表した統計に就て觀れば、北海道に居住するアイヌ人は約一萬八千人ださうであるが、其內病氣に疾む者は實に三千餘人の多きに達して居るといふ。斯く

□總人口の六分の一が疾患者である＝
＝といふ悲慘な狀態にあるのは□

彼等は醫師に診察治療を乞ふ事を欲せないがために、其結果は益々彼等仲間をして漸次滅亡の域に達せしめて居る。で其三分の一の症病者の中で何の病氣が多いかといふに、其半ばを占むる者は結核で、次がトラホームといふ順序になつて居るが、其中最も旺に猖獗を極めつゝあるのは第二の梅毒であつて、殊に程度が甚しいといふのは尚更悲痛に堪へざる事である。而して彼等が花柳病を知つたのは極めて最近の事であつて、決して彼等の仲間が古くから持つて居たのではなかつた。偶々內地人が彼地に出稼した時、アイヌの或婦人を强姦した者が花柳病患者であつたが爲め、其婦人が傳染して遂に今日の如き狀態となつたとの事である。

前に述べた通り其間に醫師の診察治療を乞ふたならば、或は今日の如き斯る悲慘なる結果を生ずるに至らなかつたかも知れぬが、無慘にも彼等の血統は內地人の强姦行爲と彼等が比較的未開であつたといふ理由から民族存在の根底に一の不安を與へられた事になつたのである。私は今茲に此最も恐る可き花柳病に就き少しく述べて見たいと思ふ。吾人々類が比較的等閑に附しては居るが、加も之に對して容易に打克つ事の困難なものは性慾である。若し人間に此性慾といふものが無いといふならば、其人は全くの僞善者であつて、普通人であつたなら何人にも必ず有る可き筈のものなのである。而して之が常に人の中心となつて活動するのであるから、戀と云ひ色情と云ひ全く此性慾を除ての者ではない。只其が時と場合に依つて特種な色彩を帶びて外部に發現する事に依つて、其處に種々雜多な事件が惹起するのであるけれども、歸する處は皆性慾を中心とせざる者はないのである。だから此複雜せる各人の解決は要するに平和といふ事にのみ依つて初めて圓滿なる發達と進步を得らるゝものと信じて居る。併し平和は其人に依つて格段なる差異があつて、或者は理性に依り、或者は修養鍛鍊の功に依り其他諸般の境遇に依つて各自特別なる機能を有するから、

□從つて皆一樣に圓滿なる＝
＝平和を求むる事は能ぬ□

於茲乎若し不幸にして平和を缺くに至らば、其結果は生殖作用の不如意から因する性慾不滿に陷るのである。生殖作用の極めて重要視す可き點は此處に存するので、生殖が無ければ性慾はない。だから人は常に生殖作用から性慾觀念が誘起されて、種々な形をなして外部に現はれる事になる。此事實から人は生殖作用を矯正すれば、性慾觀念を全然隔離する事が出來るといふ。併し我々は生殖を離れて如何なる結果が起るかといふ事に就ては、到底現在の狀態に於て之を臆測することは考へられぬ事であるし、亦我々が矯正し得るとしても夫が我々人類の幸福であるや否やが頗る疑問とす可き點であるから私は其處迄謂ふを認めない。吾人が成長して或る時期に達すれば、其體質の十分なる發育と共に必ず生殖が盛に

なる事は天下周知の事實である。其生殖の旺なる時に直に配偶者を得て、其作用を完全に遂行し得ば誠に好都合であるけれども、現今の如く社會は益々複雜となり容易に配偶者を得る事が種々の事情の下に出來ぬから、隨つて其處に種々なる問題が生ずるのであつて、要するに此問題の要點は如斯場合に到達して其生殖作用を抑制するか抑制しないかの問題である。近來社會の複雜となるに伴つて此性慾問題が非常に重要視せらるゝに至つたのは全く右の結果に外ならない。併し私の考へでは制慾は一向生命の上に害の齎さる可きものではないと思ふ。

□假令は僧侶の中には純正なる獨身主義＝を採つて隨分長生した例がある□

加も其結果は普通人の體質並に其精神上に於て一層健全の永續を見らるゝのであつて、人は制慾を爲す能はずと斷定する事は出來ないのである。若し不幸にして制慾の不滿、所謂正當なる生殖作用を爲す能はざる境遇の者は茲に手淫なる者が生ずる事になる。今更茲に贅言を要する必要はない。次は私通である。第三は淫賣婦に觸れる。大抵の場合は此第三位にある形式を採る者が多いのであるが、要するに之等は性慾觀念を適當に抑制し能はざるの結果、夫より生ずる不平をして充たさんが爲めの作用の形式に過ぎないのである。青年の多くは淫賣を共同便所視して平氣で性慾を充たして居らるゝ様であるが、夫がため却つて過大な苦痛を貰つて來るのである。一時の愉快のためにする經濟問題は別として、恐る可き花柳病の病毒を貰ひに隨分高額を支拂つて來るといふ事は全く變な事ではなからうか。此處に云ふ花柳病とは主に淋毒、黴毒、軟性下疳の此三種をいふのであるが、其病毒を引受けた者は必ず本人の身體を毀傷するは勿論、其根氣も夫が爲め漸次衰へる例は既に多くの人の經驗に依つても顯著なる事實である。のみならず其病毒は更に其子孫に累を及ぼし、完全なる第二國民を養成する事が不能となり延いては國家に非常なる惡影響を與ふるに至るのであるから、吾人は十分注意しなければならない。

此話をするには先づ花柳病の蔓延といふ事を一應述べる必要があるから、私は此歷史に就て少しく申述べたいと思ふ。花柳病が人類の間に何時頃發生したかといふ事に就ては、未だ詳細なる調査事實がないから確證を擧げる事は不可能である。只其蔓延の時より知るの外はないが、花柳病が歐洲諸國に傳染された起因は、西暦千四百九十三年

□コロンブスが亞米利加を發見した當時＝其船に乘込んで居つた一水夫が□

亞米利加土着の一婦人より感染して、夫を本國に植えた事より初まつたので、夫から伊太利佛蘭西西衛の諸國大に蔓延して流行を極め、東洋では支那に流行したのが西暦千四百八十八年より同千五百〇四年の間であつた。殊に廣東地方に大猖獗を極めて、支那に於ては此病氣を楊梅瘡と稱して居つたのである。我國へ輸入されたのは其後數年を經た西暦千五百十二年から同十三年の間であつて、之を琉球瘡と稱して居た病毒であつた。斯る順序を經て世界各國へ瀰漫した原因は觸接傳染といふ事に依つて漸次增加したのである。而して觸接傳染は交通と流行とが重なる原因であつて、十九世紀の文明は交通の發達の著しきがため一層其結果を早からしめた。我國に於ては此因由に依り交通の關係より、殊に都會の如き諸人接觸の機會の多き處が最も早く瀰漫したのであるが、天明八年に或學者が書いた「黴毒國誌」を視るも、之等の事實を記して居て大都會の十中の八九は殆ど黴毒であると稱して居る。斯く恐る可き此病毒が何故に右の事實の如く迅速に傳染したかといふに、人類一般が花柳病を輕視するがためであつた。畢竟治療に就て比較的外面が早く癒る事と、直接に生命に關する處がないからであるが、併し之を國家の上に取つて見れば其損耗は實に大なる者がある。それは第一此病氣が青年に多いといふ事と、

□又其子孫が遺傳に依つて幾多の＝不具者が出生する事である□

加之一旦此病氣に罹つたなら意氣の消沈を見るは何人も知る處である。此最も恐ろしい病毒の撲滅は全く國民全般延ては世界人類が相共に協力して努めなければならぬ。從つて各個人に於て十分留意する處があつて欲しいと同時に、一方には花柳病豫防會等の如き社會事業が勃興して大に此恐る可き病毒をば一掃する

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

やうにしたい。然るに社會の多くの人達は未に昔日の弊風を矯めず、花柳病に罹る事恰も名譽の如く心得て居る者さへある。彼の角力取りの如きは全くそれで、毒を吹き切るのだといふて一人前の角力取りになつたかのやうに心得て、喜び勇んで私の處の病院へ來るのである。曾に角力取り許りでない隨分地位のある方でも平氣で居る者もあるが、之等は全く花柳病の恐る可き事を知らぬのであつて、其人達から生れる子供の身上は實に悲慘の極である。私の病院に斯ういふ極端な例がある。それは淋病患者が毎日多數來診室に集つて種々の雜談の結果、互に知己となつて遂に同病相親むといふ處から林友會といふ者を組織するに至つた。此林友會の林の字は淋病の淋の字であるがそれでは餘りに酷いからといふのでシを取つたのであるさうだ。而して之等の連中は時々親睦會を催し大に遊蕩した揚句が又復固の重患に返つて、又遣つて來るのである。

□斯うした事が臆面もなく行つて居る事は‖
‖國家の目から見ると實に歎しい次第である□

私は專門家ではないから詳細の事は茲に言明が出來ぬが、隨分立派な人達が治療に來るやうである。だから花柳病豫防會等があつて十分撲滅の爲めに努力して居るけれども却々減じない。却つて年々増加する傾向があるのである。

扨て今度は傳染の事に就て少しく述べて見たいと思ふ。黴毒の傳染は必ず接觸傳染であつて、肺結核其他の流行病とは少しく其趣きを異にして居るのである。此接觸傳染は千九百〇五年獨逸人のシヤウチン氏が發見したのであつた。で此人の說に就て見ると黴毒の病菌（之をスピロヘーテと稱する下等動物）は黴毒なき人、卽ち黴毒以外の組織には發せずと謂ふて居る。組織といふのは其スピロヘーテが繁殖して其處に一種の變體を見るのであるが、併し其人の體質並に氣候等種々な關係から、此スピロヘーテが極めて迅速に或は又緩漫に黴毒の組織を形成するのであるから、時に肉眼に依つて判斷の出來る事もあれど中には一時全く何等の變體も起らぬといふやうな場合もある。そして傳染にも直接と間接とがあつて、强ち黴毒組織の人に直に接觸する以外に傳染せぬのではないから、成る可く黴毒に罹つた人には觸れぬやうにしなければならぬのである。若し其危險を冒して接觸すれば大抵は傳染するといはねばならぬから大に注意を要する。其理由はスピロヘーテの最も傳染し易いのは男女を通じての陰部だからである。言ふ迄もなく陰部は極めて複雜した組織から成立て居て、それを包む處の皮膚は粘膜であるがため、他の個所より最も傳染が早い。而して此病菌は男子は陰莖に女子は多く肛門の周圍に繁殖するから一層傳染を容易ならしむる事になるのである。其他の傳染の個所は口圍、乳房、手指、顏面等で前にも述べた通り接觸さへすれば何れの處よりも傳染する性質があるが、以上はスピロヘーテの極めて入り易き部分なのであるから充分注意を怠つてはならぬ。で陰部外の傳染にも直接と間接との二種があつて、直接傳染といふのは接吻又は咬傷等よりするものと、哺乳の關係上から來るもの卽ち養親が當時梅毒であつたため乳の中に混入して傳染するもの、或は又出產の際に於ける醫師產婆等の不注意より傳染する者がある。間接傳染の方は第二者の媒介、卽ち梅毒者が使用せし種々の器具等よりと、又は醫師產婆の不注意より傳染するもの等があるから、要するに

□梅毒といふものは後天的にも‖
‖以上の條件に依つて容赦なく傳染する□

ものであるから、之を人種や老弱男女等の區別は絕對にない筈である。恐らく傳染病中でも最も危險の甚しいといふ事は之で略想像する事が出來やうと思ふ。一旦梅毒が傳染すれば忽ち種々な變化を身體に與へ、其處に又種々な弊害損耗のある事は何人も知る處であるが、それが其人自身丈で濟めば結構であるが、遺傳性を持つのであるから實に其毒が恐ろしいのである。所謂遺傳梅毒と稱するものが之であつて、一名先天性梅毒ともいふが、大樣之を二つに區別する。第一が狹義の遺傳梅毒卽ち胚種性感染梅毒と稱

するもので、之には父又は母の梅毒又は兩親共に梅毒に罹つて、それが子に遺傳する處のものであつて、第二が子宮傳染である。從來遺傳梅毒は父の梅毒より以外にはないものと思はれて居つた。併しさうではない。矢張り母の病毒も遺傳するのは近來一般に認める處であるが、父が梅毒にして母が健全なるも、ワ氏の反應では潜伏性梅毒を有する事が明白であるとの事である。けれども其多くは子宮傳染が最も甚しい。

以上は世人が花柳病に對する一般的必要なる智識であるが萬一不幸にして間接傳染等の場合に於ての注意は玆に略して置く。で現在に於ける花柳病の蔓延狀態に就て少しく述べて見たい。諸君も既に御承知の如く

□近來此問題の研究は益々重要視され＝各國政府迄も皆夫々適當の方法を考案し□

歐米諸國の如きは既に之が豫防の法律さへ能て各個人に强制的の手段を採つて居る有樣であるが、我國の如きは未だ其域には達せぬが早晩何等か方法を採つて適切に豫防の手段を取らなければならぬ事になるであらうと思ふ。殊に近來は風紀益々紊亂し、國家の上中下の各級に通じて何れも病毒が漫蔓しつゝあるのであるが、此の漫蔓には勿論公私娼に依つて其程度を進める事は謂ふ迄もない。由來國民一般の衞生思想では花柳病は公娼を設置する事に依つて其豫防の効果があるやうに勘違ひをして居るものが鮮からずある。成程時々當局者が彼等の檢黴を强行して罹病者をドシ〳〵入院治療を施し其病症が回復するに非ざれば再び客に接待せしめぬ樣にして居るけれども、却々容易な業はなく時に或は檢黴後直に感染せる場合には次の檢黴期迄確實な有毒者であるから、其者に接した客は皆其災厄者となるのは當然な事である。過般京都大學に於て花柳病傳染統計を取つた處を見ると、患者三百十人に對する場合は左の如くである。

公娼　一六三　藝妓　三六　酌婦　二七
密賣婦四　玉突矢場女三四　夫より二三

之に依ると六〇%は公娼より感染した事が判る。又大阪に於て調査した結果でも七〇%が矢張り公娼であつて、淋病が一〇・四%、下疳が四・九%、梅毒が、一・七%の割合であつた。勿論的確たる數字とは云ひ得ないが、先づ斯樣な割合に依つて社會に傳染せしめて居る。我々は是非とも其問題の鮮決のためには彼等の跋扈を制して初めて其曙光を認めらるゝのであるから、政府も國民も共に格段の努力が必要である。

（經濟會講演大要在文責記者）

□主は三食妻は二食□

天井知らずに騰貴する此頃の物價は細民に取つて骨を削らるゝやうな苦痛である。殊に貧民窟として有名な、下谷萬年町邊の窮迫は、其のドン底に達してゐる。萬年小學校では今週の日曜から本日の土曜日まで一週間分生徒の食事の統計を取つてゐるが三年生以上になると羞恥心を有するものから本當のことを記入しない、試みに夜學

その二食も副食物はない粟飯

部の三年生陰山榮が三日分の飯事を示してみよう

	朝食	晝食	夕食
日曜	飯三椀 味噌汁三椀	なし なし	飯三椀 なし
月曜	飯四椀 うづら豆	飯四椀 なし	飯四椀 澤庵
火曜	飯六椀 汁三椀	なし なし	飯四椀 汁三椀

右に就て敎師は不審を懐き、副食物なくして飯が喰へる筈はないがと訊くと、饑じい時は粟飯でも非常にうまいと答へたさうである。其他も殆どこれと五十歩百歩のものであるが、多くの家は一家の中心となつて働く父のみが三食を取り、母や子供は二食又は一食を取り、それも米ばかりでなく甘藷の如きものが八分を占めてゐる。彼等の話に依ると安い米や麥を混ぜたものは却て早く腹が空いた上に炊いて殖えないから比較的良い米を喰つてゐるが、一圓二升臺の米になつては全く遣切れないと。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

兒童賞罰に關する根本問題

お茶の水幼稚園主事　倉橋惣三

子供の敎育は凡て吾々の眞心から發露せるものでなくてはならぬ。殊に賞罰さいふ事に於ては一層さうでなければならぬからして、單純に賞し方或は罰し方さいふ方法のみから取扱はるべきものではない。此意味から賞罰を考ふるさ賞める場合は其子供のした事に就て、吾が心から喜び嬉しく感じて其嬉しさを或形を以て發露したものに外ならず、罰の方は子供のした事に就て吾人の心に起つた悲みが露はれたものに外ならぬ。卽ち子供のする事に就て吾々が先づ眞に喜び又は憂ふるに非れば、本當の賞罰は吾人が行ひ得る筈のものではない。又賞罰さいふものが本當の深い所に於て子供の心の上に或る勢力を有し又影響を與ふるこさは此の吾々の喜び或は憂ふる心が子供に通じた時に起るのである。倘詳しく言へば、賞められるこさよりも自分のした事に就て、親なり先生なりが喜んで居るさいふ大きな事實が子供に働いて來る。罰の場合に於ても亦同樣で、子供が或る惡事を働いた時に、それを平氣で見ないで、其の爲めに親なり、先生なりか、堪へがたく心を動かして、或は憂へ或は時々は憤りもさへするさ云ふ、其の大きな事實が子供に對して非常に貴重なる事を敎へるのである。

倘進んで云へば、子供は自分のした事に關して正邪の區別を明かに知らない程度のものもある。或は正邪を知つても其に就て道德的な感じを自ら持てない程度のものもある。そこで或は善い事をしても、惡い事をしても、何等の感じを自分の心に殘すこさなくして過ぎてるさいふこさがある。之を吾々が側に居て其子供に代つて善を善さし、惡を惡さして强く感じてやるのである。之が靑年以上の人ならば、自分自身の惡い事に就て悲しいさ感じ又は善い事をした事に喜ぶであらう。換言せば、自分の生活に就て、道德的に喜憂して、それで道德的に次第に發達して行く、吾人の言ふ所謂「道德的反省」さ云ふが之に外ならぬ。然るに子供は此反省なくして自分の生活に對して喜憂を用ゐないのであるから、子供に代つて此働きをしてやる必要がある。而して吾人が子供に代つて或は憂ひ或は悅ぶ時に、子供の心にあつては恰度、靑年や大人か道德的反省をして居る時さ同樣の反省を與へるものである。此の子供の行爲に就て喜憂するこさはワザさする事ではなく又子供の爲めさいふ事からして居る事ではない、吾人が愛する子供の行爲に對して、或は子供の行爲に對する自然の熱情に過ぎない。故に必ずしも吾人の喜憂の情を子供に示さなくさもよい。最も心の優しい母親などには此の如き場合が往々ある。愛する子供の性質に就て喜憂する場合あるも之を秘して子供に言はず、子供も知らず〳〵過ぎて行くのであるが、或る機會に於て母が子供の行爲に就てあんなに心配して居たかを氣が附くこさがある。其時に子供の心に起る道德的刺戟は非常に大きなものである。然し自然の感じなれば强ひて子供に之を語らなくてもよいけれども、其れが自ら外に表はれて來る事も屢々ある。之が子供にさつて賞罰さして感ぜらるゝものである。

近頃は子供の取扱方に關する冷靜なる敎育的研究が盛んに行はれて來て、子供の心に及ぼす賞罰の影響さか、又は賞罰さいふ敎育的方法の細かい研究さかゞ大に注意されて來て居る。之は確かに必要な事であり又吾人が周到に考へなければならぬ事であるが、此の如き事のみで賞罰の全部が終つて居るさ考ふるならば餘りに淺薄である。吾人人間の眞に價値ある生活は決して無感激な思慮や方法のみでは行はれない。況んや子供を敎育する場合に此の如き冷靜な態度で本當の事が出來るものではない。如何にして敎育的に賞めるべきが罰すべきか、或は如何なる方法が正しいのであるか正しくないのであるかさ云ふ樣な事だけで子供の敎育は出來るものではない。假りに賞罰の方法に於て誤つて居るこさがあるさしても、子供の爲めに喜び、或は憂ふる事の親の心情さいふものが眞實であらば、其れが子供に眞實の敎育的効果を來すのである。倘極端の場合を假想せば、子供の爲めに憂ひ、喜ぶさいふ眞實の感激なくして、賞むべき故に賞め、叱るべき故に叱るさ云ふ樣な取扱のみを受けたさしたならば、其の賞罰は何かの結果を持來すであらうけれさも、自分に就て親なり先生なりが斯くまで喜憂するさいふ人間的眞情を感ずる機會は此場合には起らない。而して若し此の如き事か屢々行はるゝならば、其子供は賞或は罰其れ自身に依ては敎育さるゝけれども、人間からは少しも敎育されて居ない事になる。子供の敎育法の冷靜なる研究の必要さ共に吾人が果して何處まで眞實に子供の行爲に對して喜び、憂へて居るかさ云ふ事を終始注意して居なければならぬさ思ふ。之が子供の賞罰に關する最も根本的大問題である。

智識階級とは何か

水津千雲

近來智識階級といへる文字が各種の社會に使用せられ公文に迄も之れを發見するに至つたが此文字の範圍名稱の意義を定めて置くとは學者識者の職責で有らうと考へる。自分は固より學者でもなければ有識者と言はれる譯ではないが常に教育の側ら社會學の攻究に心事を勞して輸入的ならざる翻譯的でない獨創的見地から科學的に社會を研究せむと企て先づ社會解剖組織生理より納理に及び其政策に及ばむと努めて居るため智識階級なる語が中學校卒業生とか專門學校卒業以上のものとか何やかや不徹底不明瞭なる術語の世に誤せられざらむと考へて並に單簡に其の文字の意義範圍を說述して識者の敎を乞はむとするのである。

凡そ人間社會の中で國家と稱する人間社會は比較的其發達著しく進歩向上して今は最高の部位を占めて居る故に社會といへば國家社會であると誰れでも信ずる程である。此社會を横斷して上中下の三階級に分つことも現代に於ける普通の分類法であらう併し此分類法は國民の生活狀態からしたもので社會學者の分類したといふよりか經濟學者などが已れの專攻的智識によつて都合よく分類したものであるから現今の如く社會其者を有機體として研究する點より見ると未だ不備の點が多いかと思ふが假りに三階級に分類したものを更に縱斷して見ると社會の中堅たるべき社會心意社會精神の代表者國民ともいふべき所謂智識階級に屬するものは中產階級に所屬する民であるとを知らなくてはなるまい。從來中產階級と呼れたる階級中には物質的方面にのみ活動して居る甚だ有力なる階級國民もある、此等を取混ぜて智識階級だと稱へて居る人もあるやうであるけれども決してさういふ譯のものではあるまい無論中產階級民又は中級民といふべき民には相違ないけれども智識階級に屬する國民は中級民中の一部に在るものであるとは知らなくてはならぬ。中學卒業生とか專門學校以上の卒業生とかが智識階級に入る民だと信じ又さう稱へて居る人も多いやうだが間違つて居はしないか、智識階級といふとは學校教育の程度に基いて名けるものでなくて、其國民の其職務及職業に從つて定めなくてはならない、徒らに智識階級なる段階を設くるは何の必要の存在するかを極めざれば殆ど無意味の名稱に了るであらう。

抑社會の中產階級者は各種の學者が認めて健實なる國民なりとは稱するも智識階級者流は常に其原動力となるべきものなれば國家社會を目的として活動し各自國民の活動發展の上に便宜と保護と指導と援助とを與ふる最も社會體にとりては有力且つ必要なる國民なり所謂國民精神に活動と動機とを與ふるものなり此等は寧ろ人間個人といへるものゝ存在を犧牲にして社會體全體の發達向上を圖りつゝあるものなり卽ち精神的に活動するものといふべく物質的方面に於ける中產階級者も有力なる國民には相違なけれども此等は先づ其個人の生存を基礎として活動部位に入るものにしの智識階級者が生存を後にして其職責を先にすべき義務あるものとは玆に大なる逕庭あることを知ることが出來るこれがため智識階級者は社會の保護と尊敬とを受くる所以にして實に尊ぶべき國民階級といふべきである。社會は此階級國民の頽落に由て社會精神は亡失し國家は忽ち滅亡の厄に遭遇するものである故に苟くも智識階級に屬する國民は衣食住の慾望を抑制し自已の職責の完からむことに努力し粗衣粗食に甘んじ人間的理想に向ひ猛進し修養を怠らず風教の中心となつて社會の惡思潮浮薄な風俗に打勝ちて之れを矯正し日本古代の武士が庶民の模範を以て任じたりし自覺を以て所有國民の福利と平和を助長し又指導啓發をなす重大なる道德的責任あるものとす。今左に其階級者の主なるものを列擧すれば。

學者、教育家、新聞記者、辯護士、技師、醫師、警察官、司法官、軍人公吏、官吏、慈惠公共に從事する者等。

の如く職務其者を理想として其目的に突進して居る者でなくては智識階級者とはいへぬ。物質本位で營利を主とせざれば活動し能はざるものは縱ひ智識を勞するとても又專門學校以上の教育を受けたる者のといへど智識階級者たることは認容する譯には行かない。選擧法改正案の理由の中であつたか智識階級といへる文字を散見したやうに思ふ而して其文字の意義が甚だ不徹底の樣に思はれた選擧法改正案は實に現代日本の重要問題であるけれども、其調査に從事するものは多少とも實社會の研究に堪能なるものをして調査せしめ立案せしめされば改正の結果は更に修正を要するやうな鵺の如き曖昧なる法文となるは國民の忍ぶ能はざる處である。國民を代表するてふ議員の今少しく考究して輕々に了らしめざらむことを望むのである。(寄)

或る人に與へられた手紙

福井壽郎

如何にして私の處にあつたかは知らない。けれどこんな手紙が私の机の中から現はれた事は事實である。決して綴つたものぢやない。併し私には面白いと考へられる所もある、實際だと同感する個所も多い。

恐らくは誰かゞ書いた儘私の處へ置き忘れて、其の儘に發見せられずに今日に至つたものらしい、手紙として認められたものが本人の手に入らずに、第三者の私の手許に永遠に宙に迷ふことはあまりに傷ない。此の手紙を讀むと私は之を書いた人を想像せずには居られない、否、此の人、其の對者、此等の人を取り卷く社會。亂れ易い情操の上に立つ若き人の中にも此の樣な人のあることを嬉しく思はずには居られない。

無名にも等しいイニシャルだけしかない手紙！　けれども懷しい。

私はこれを自分一人で懷しむにはあまりに惜しい。當事者の手に入らずして私の處に來たのは又何等かの因緣に繫がるものではないでしようか。

「若き人々よ永遠に幸福なれ」此の手紙を見ての私の希ふ所は此の言に終る。

Kさん

人生の幸福とは何をか意味し何をか提示するものでしようか、空々寂々五十年、長しと見れば長く短かしと觀ずれば蜉蝣の一瞬にも比すべき生命を抱いて居り乍ら、悠久の宇宙の空間に掉して風のまにまに生活を續けてゐる人としての使命、その目的何處にかあるのでしようか。

巨萬の富、金玉の高樓、榮位高爵これ果して人の眞に求むべき處でありませうか、賤の女が伏屋にも清らかなる秋の月は隔なくさし、見れば刺ある茨にも美はしの花、咲くぢやありませんか、世の中はそんなに高位權官にのみ榮耀を與へ、人としての本分に反かずとしてそれを讃美し、田夫野人が日出でゝ耕し星戴いて家に歸る其の生活は苛酷なものではありますまい。

乞食が富豪を見れば其の華麗、飽滿なる殿堂生活に羨望の眸を放つかも知れない。併し驕奢なる長者の生活其所には何等の不滿不足が眞實に釀されては居ないでしようか、富豪、野人の素野なる風習、素實なる生活を見るなれば或は反つて其の簡易平和を深く愛するかも知れない。

御覽なさい不平不滿が富者優者にないかと見れば事に觸れて自殺したり、家庭治まらずして其の妻を悲嘆の淵に沈めたり、華族夫人が夫を捨てゝ運轉手風情と心中の眞似をしたり、野合の若者が墮胎犯で捕へられたり……監獄にある囚人に何故此所に來たかと尋ねれば、これ等に對する最も明瞭なる回答を期待することを得るでしよう（勿論多少の例外は如何なる場合にも認めなければなりませんけれども）彼等は一齊に口を揃へて叫ぶでしよう

「あゝ生活の基根を誤りしが爲めに」と。

更に又教會だとかお寺だとか其の他道德的、倫理的集團の下に自己の高調？を企てゝゐる人達は自己發展、生の高調其の他には何等の不平がないでしようか、強辯を弄して自ら高しとする牧師だとか僧侶だとかが如何に多くの人を迷路に引き入れるかを考へて御覽なさい、生活の基本を誤まれば必らず不平不滿が現はれるのであります。

若し眞個に人たるの自覺に目醒めたならば獨りデー河畔の米搗きのみ I envy no bodly, and no bodis envics me! を叫び得るのではありますまい。不平不滿なく悠々として生を樂しむなれば、王侯君子又水車夫を羨むではありませんか。

あゝ私はあなたに手紙を書こうとして餘計な事に筆を走らしてしまつた、こんな事は今更らしくあなたに申上げる必要のない事ばかりです。

私は少しも早く私の考へてゐることがらをあなたに申上げなければならない。

Kさん、あなたのお仰る通りに戀は死よりも強いかも知れません。戀は永遠性を有するもの、人を不死ならしめんが爲めに人に與へた權利であり又人類の賜物に相違ありません。

實に人生の目的は種の保存にある以上戀は最も尊嚴な、最も重大なる人生の問題に相違ありません。生も死も戀あるが爲めの事實に過ぎない。併し乍らKさん。

これは第二義に屬する目的ではありますまいか、今少し深刻に考へて何の爲めの種の保存であるかを考へる時に自ら貴方の問題の解決が得られはしますまいか

人としての使命！若し種の保存にのみあるなれば優良なる子孫を得、佳麗なる孫女を求むること、禽獸草木と何等異なる所はないでしよう。子を得ること、小なる人として何を後世に傳へるかと言へば實に神が與へた生殖の道によつて人を遺すことより大なるはありますまい。生殖は宇宙の本旨により動植物と同じ課程を進む以上人も亦此の法則の規範の内にありませう。

併し他の生物と異なるなき生殖のみが人の目的であるなれば人生はあまりに儚ない、人としての價値はあまりに安價に過ぎる。

私はあまりに大きな問題を眞向に振りかざして、自ら囚はれたる譏りがないでしようか、けれども今少し言ひたい。

古往今來、如何に多くの人類の鬪爭が只だ戀の爲に釀された事でしよう、有史以來五千年人類の過去はこれ戀れ畫ける一大戯曲ではありますまいか。

戀は生殺の問題、戀の爲めには國家も社會も父母も帝國も何物もない、只だ強く眞實なる戀愛！其所に人類の生命はあつた、然して今後もなければならないと思ひます。

Kさん

戀は如斯絕對なものです、眞なる戀と認めたならば他の何物にも打ち勝つてそれを摑まなければならない。野蠻人と雖も彼等は戀に強かつた、近來人も戀にのみ強かつた、私は此所に言ひたい彼等の戀には自覺があつたかと。

自覺なく只だ生殖のみの使命に甘んずる戀なればそ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

れは殆んど私には價値がないと思へる、實に、實に人としての戀愛、今後醒たる人として立ち行かんとする人の戀は其の自覺によりて悟つた後の戀愛でなければならない。

然らば自覺とは何か、宇宙の本旨に從ふこと、語を換へれば、道の生活を知ることである、道が卽ち人となるときその使命は全きものであると言はればならぬ道とは何か、次に此の疑問が生れる、道とは乃ち個人として社會の一員として國家を爲す一分子として完全なる行程、それが道であり宇宙の本旨其所にあり、人としての使命初めて此所に徹底するのである、卽ち人は道の爲めに生きる、此所に於て戀愛に對する解決も自らつき、戀愛と生殖の人類に必須なる理由が釋然として明らかになるのではありますまいか。

然るに多くのものは此の法則を知らずして戀のみを知り生殖のみが目に見えて居たのである本來顚倒も亦甚だしいと云はればならない。戀あるが爲めの人生でなく、人の使命を知るが故に愛の意義が下されるのであると云ひたい。眞實に此の戀の事實をつゝならばくだ〳〵しくのべた前言せる富者貧者の量の違いが物質上にのみ止まり自覺せる生活を送るものが最も意義ありと言はればならない[illegible]河の水車夫は偉かつた。

Kさん。あまりに理に過ぎた、もう筆を擱かればならないそして實際問題に對する私の感想を終りに附け加へたい。

以上の理論によつて私はあなたの此度の事件についてそれ程悲しみもしない。理解のない愛、徹底のない戀は遊戯に過ぎない、今の世には戀を弄ぶ人は多いけれどもそれは前言せる如く無價値なものである、あなたを理解しないものがあなたを去つてしまつたからとてそれは悲しむべきことではありますまい、理解なく無理に人をくつつけることは罪惡であり、其の相互の不幸である、あなたは今少し考へればならない。

然らばあなたに大なる幸福が生れる、一時の悲哀は永久の幸福の前には何の權威もない。感情に囚はれ易きは人の常だ、けれども我々が感情の胸迫る時涙をおさへて先づ考へなければいけない。

Kさん。

お互は未だ〳〵若い、前途は洋々悠々たる宇宙である、あなたがよく〳〵考へる暇に芝居の一つも見ようぢやありませんか。芝居は我々に謎を與へてくれる、謎は我々が悟りに入る良い手引になつてくれるでしよう、まあメイテルを讀む暇で小說の一つでも讀んで御覽なさい、世の中は不思議なものさ。惡い奴が榮え善人が滅びて行く。けれども、けれどもそれを決して悲むべき事ではない。

善人の滅びは幾人かの善人を必ず生んで行くぢやありませんか。

一月三十日　　H　生

K　樣

關西地方會員の努力を望む

長野　山口龍綠

三月十五日の名古屋新聞に、二號見出にて大垣高女卒業生の娼妓志願なる記事掲載しありたり、參考迄に全文を掲載せん乎。

去る九日神戸市湊町署へ同市福原遊廓中の町新愛知樓から娼妓となつて現れ樣として許可を願ひ出た、岐阜縣大垣の高等女學校を卒業した、伊藤百合子（二〇）と云ふ一風變つた新しい女があつた、同署では一應本人を呼出し意嚮を訊問する事とした、美しい容貌に體格を持つて居る彼女は、係官の訊問に對して臆する所なく語つた。

「私は女學校卒業後は小學校の教師を勤めたり、家庭教師となつたり、タイプライターの練習をなしたりしたが、幸福な道を歩む事が出來ず、落着のない身を放恣と漂泊に大阪、神戸と流れ果は朝鮮くんだり迄も流れて、種々悲しい目に遭遇し、女性として特有の虚榮から遂には男の瞳を誘む事が上手になつたり、流行唄を唄つたり、隨分放埒な自分ながら呆れ返る程淪落の淵に沈み、自嘲と懺悔の涙の乾いた日がありませんでした。內地へ歸り兩親や可憐に伸びつゝある弟を想出して、私は初めて自覺する事か出來ました。長い苦悶に囚はれた心は然操して終に娼妓志願を決しました「親は他國に子は島原に櫻花かや散り〳〵に」と云ふ。唄の文句も、娼妓稼ぎの辛い慘めな事は萬々承知して居ます。斯く決心する迄には、私の胸にも凡ゆる考慮と凡ゆる方策とが繰返されましたが、實際考へて見れば拾八圓や二十圓の月給で、兩親や愛弟を如何する事も出來ませんので、せめて弟だけには立派な教育を授けたい心から、私の身を犧牲にして樓主から千圓程貸りる意りで居ります。私は身を泥水に沈めても心だけは沈めない意です」。

と語つたこの自覺的（？）娼妓志願の女は、目下新愛知樓の納戸に小さくなつて許可の日を待つて居る、警察側では先年大阪でも或る高女卒業生が娼妓に出樣としたのを不許可になつたのに鑑みて、目下愼重な態度で研究問題とされて居るが、許可不許可は未だ決定しないと云ふ事である（原文の儘）。此の記事を見て會員諸賢將又當局者も喋々愚生が述べる迄もなく、否なる事は火を睹るよりも明なるべし。

なれど恐らく腐敗其の極度に達せる現實の社會に對し、獅子身中の虫となり。いさゝかなりとも拙文が腐敗せる社會に對し刺戟する所あれば幸甚なり。

淪落の底に落ちんとしつゝある百合子ヨ汝の名はか弱き女性なり。

彼が今迄辿りし道は皆な横道にして、動もすれば誘[illegible]

[illegible]

一日自樂爲べきは女の虚榮、惡むべきは誘惑の究極花彼百合子も、日に彩色、身に輕蔑、口に甘媚を求めし

槿花一日の榮を誇り遂に淪落の女となり、

肉を窃ぎ、野獸の如き男子の娼を誠も如き悲慘且つ哀むべき娼妓を志願なすとは、之夫も百合子の心底の何物なるかを哀まざるを得んや。噫!!恐べき娼婦、彼百合子の影に、如何なる傀儡師が潜みて惡辣手段を講じつゝあるかを見よ、是れ實に教育を爲すなる語を藉りて、娼妓許可を得ん爲めの惡辣手段にはあらざるか惡むべき誘惑の窟。

仰ぎ願くば關西地方の會員諸兄よ、正義の劍を提げて彼等の眼を覺ませ。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

編輯の後

▲豫て懸案中であつた新宿遊廓が、今回愈々裏通りに移轉を命ずる事となつたのは、甚だ喜ばしい事で、當然しなければならぬ事をしたに過ぎないけれども、それでも一言感謝の辭を當局者に致して置く。

▲併し乍ら當局者が常に不正なる要求に應ぜん事にのみ努めて、要求を減ぜしめんとする態度のない事を我等は常に遺憾としてゐるものである。新保安部長の小幡氏も、丸山氏同樣現制度を是認はしてゐないが、やはり改良論者の殼を破る事が出來ないのではあるまいかと思はれる。實際問題はどうしても需要に對する供給の方法を講ずるでなくして、需要制減の方面に向つて政策を立て直すでなくては解決はされない。

▲丸山前保安部長も、愈々近日一年間の海外視察を了へて歸朝の筈であるが、氏の樣な眞面目な研究者も、所謂一葉眼を掩へば泰山も見る可からずで、公娼是認が先入主となつて、殊に歐米戰時の風紀頽敗を目して之を公娼(殊に日本の如き公認的集娼制)なきの罪に歸するなきかを窃かに恐るゝのである。

▲府下小松川といふのは本所區の接續町で、本所方面が工場地として大發展を遂げた爲めに頓みに賑かになつた處であるが、荒川改修の爲めに荒地を埋立てゝ得た廣大な地域に、遊廓設置の目論見が行はれてゐる。若し之が實現せられるとすれば、本所方面に居る十萬の職工は吉原洲崎を棄て、近い小松川に向ふのは必然で、現に市内電車江東橋終點に引續いて、城東電車なるものがあつて之れに乘れば、約二十分にして小松川に達し而も遊廓設置の地域は一歩の下にあるのである

▲事件の發端は、鶴見に待合を有してゐる小松川染料會社々長丸山助次郎なる者や、新埋立地所有者たる町長川野源吉、町會議員雨宮久太郎、島村一郎、新堀仙太郎等が主唱し、昨年五月上旬町會は十八名滿場一致にて贊成し、七月中旬町長は代表者として警視廳並内務省へ出願したといふ事であも。加も設立の理由は町の繁榮の爲めといふのださうな。城東電車の株を有つてゐる者などは、收入增加を見込んで無論大に贊助してゐるとの事である。

▲若し之れが許可にでもならうものなら、我々は大阪の飛田遊廓以上、大活動を起して、朝野を覺醒せしめなくてはならぬ。刮目して今後の成行を見たいと思ふが、まあ〳〵まさか許可にはなりますまい。

▲先達て名古屋の某料理屋に、二人連れの大阪者らしい男が這入つて來て、飲食の注文をした。そこで間もなく女中が相當の品を調へて膳部を運ぶと、默つて見てゐた二人は、それ丈では足らぬから此六疊の部屋一ぱいに料理を並べて呉れといふ。變なお客だと思つたが、身なりは立派な事とて間違もあるまいと、色々調理をして大勢の女中がずらりと膳部を並べると一人は急用があると何處へか行つて了ひ、殘つた一人は箸も取らず、ニタリ〳〵と笑つてゐるので女中達は内心氣味惡くなつて居る處へ、男は一騷ぎしたいから藝妓を五六十人呼べといふ。女中達は驚いて之れは危險と惑じ、相談の上一人の女中が恐る〳〵、始めてのお客の事故、先づ料理の方の御勘定を願つて、それから何人でも藝妓を呼ぶ事にしたいといふと、男は「うん、金か、金はないよ、此通りさ」とばかり、紺の財布を逆さにして見せたが。一錢も出て來ない。

▲女中はさあ大變だ、だから云はないこつちやないと云つた樣な騷ぎになつた、交番に電話をかけるといふ事になると、すると男は「交番は待つてくれ、金はないが拂ひ度いものがあるから、土地で一等の貴金屬商を呼んで呉れ」との事に、兎も角もと早速電話をかけると間もなく自轉車で店員がやつて來た。お拂物は何ですかと聞くと「玄關に乃公の雪駄があるから、あれを千圓で買てくれ」といふ。「エ、ッ」と女中達が眼を見張つて呆氣に取られ、テッキリ氣印と思ひ乍ら其雪駄なるものを店員に見せると、店員は「千圓ぢや困りますが五百圓なら只今頂戴して參ります。」

▲女中達は二度吃驚、客と店員との顏を見比べて居ると、客はニコ〳〵笑ひ乍ら「今大阪から千五百圓で買つて茲迄來たばかりだのに、千圓の損は辛うおます」といつて居る處へ、ブー〳〵といふ勇ましい音がして自働車が乘込んで來たので、女中達が慌てゝ出迎へると先のお客の伴れである。そして何を騷いでゐるのかと聞くと、無錢飲食で引張られやうとしてゐる處で、止むなく雪駄を賣らうかと思つてゐるんだと答へると伴れの男は「ふうん、一體何程の勘定だ、之でも足らないか」とばかり、百圓紙幣の束一萬圓を懷からさつと抛り投げた。女中は驚いて若しや贋金ではないかと拾つて見るとさうでもないので、愈々呆氣に取られて其内の一枚をぬいて、帳場に持つて行き、お釣りをと持つて來ると、釣はいらぬといふが否や、二人は自働車に打乘つて其まゝブー〳〵。

▲あとで金物屋の語る處によれば、あの雪駄の裏には白金が打つてあつたのだとの事で、女中達は丸で夢でも見たやう。口アングリで、主人が歸つて來てそれが大阪の成金で、手前達の眼が利かぬから、大切なお客を逃がしたとて、一同おこられたといふ。

▲考へて見ると何といふ馬鹿氣た遊びでしやう。私が此話を島田會長にしたらば、先生は亡國の兆ですねと言はれたが、全く亡國の兆とでもいふより外はない。米國などが緊張し切つて戰備に汲々たるに比して、何たる有樣であらうか。

▲來月からは事務も編輯も活躍出來ませう。(江南)

大正七年四月一日印　刷(毎月一回一日發行)
大正七年四月一日發　行　一部金七錢郵稅共

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉

印刷人　小石川區大塚窪町一番地　久保民生

印刷所　京橋區弓町十三番地　千代田印刷株式會社

發行所　神田區表猿樂町十番地　廓清會發行所
電話本局六二四番
振替東京二七〇七二番

◉御注文の際は必ず雑誌『廓清』に依る旨御申添を乞ふ◉

産婦人科。小兒科

女醫 鷲山改め 吉岡彌生

△院長診療 宅診午前 往診午後
△醫員診察 午後

産室及病室の設けあり隨時入院の需めに應ず

東京市麴町區飯田町四丁目三十一番地

東京至誠病院

電話番町二二五七番

山室軍平氏著

社會廓清論

特價七十錢 郵税八錢

グレゴリー氏著（邦譯）

歐洲諸國醜業公認制度廢止運動

特價税共十錢

伊藤秀吉氏著

娼妓自由廢業案内

特價税共十二錢

酒きらひになるくすり

どんな、酒煙草のみでもからだに少しも害なく心からきらいになること妙郵券二錢送れば說明書及大澤博士其他名士の禁酒禁煙論を進呈

禁酒丸
一週分一圓
二週分一圓九十錢
三週分二圓八十錢

禁煙液
五拾錢
壹圓
壹圓五拾錢

煙草きらひになる藥

本舖 大阪靱南通二丁目 森田商店
電話土佐堀二六〇二番
振替大阪三三一二六番